

中九州横断道路(大分^{おおいた}～犬飼^{いぬかい})

第3回 説明資料

令和5年12月4日

国土交通省 九州地方整備局

目次

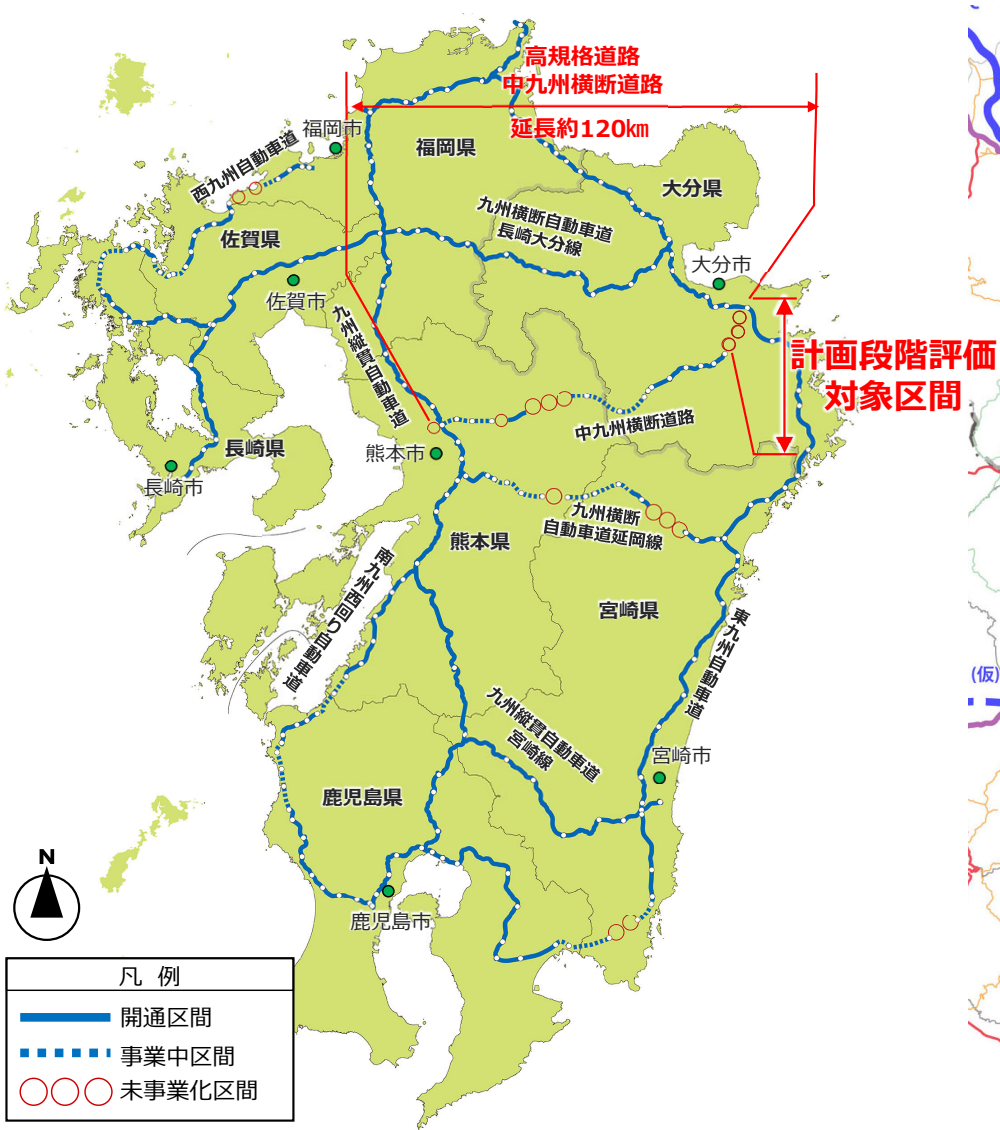
1. 前回までの審議内容	2
2. 第2回意見聴取の概要	8
3. 第2回意見聴取の結果	16
4. 対応方針(案)の検討	33
5. 自治体への意見照会	38
6. 対応方針(案)まとめ	40

1. 前回までの審議内容

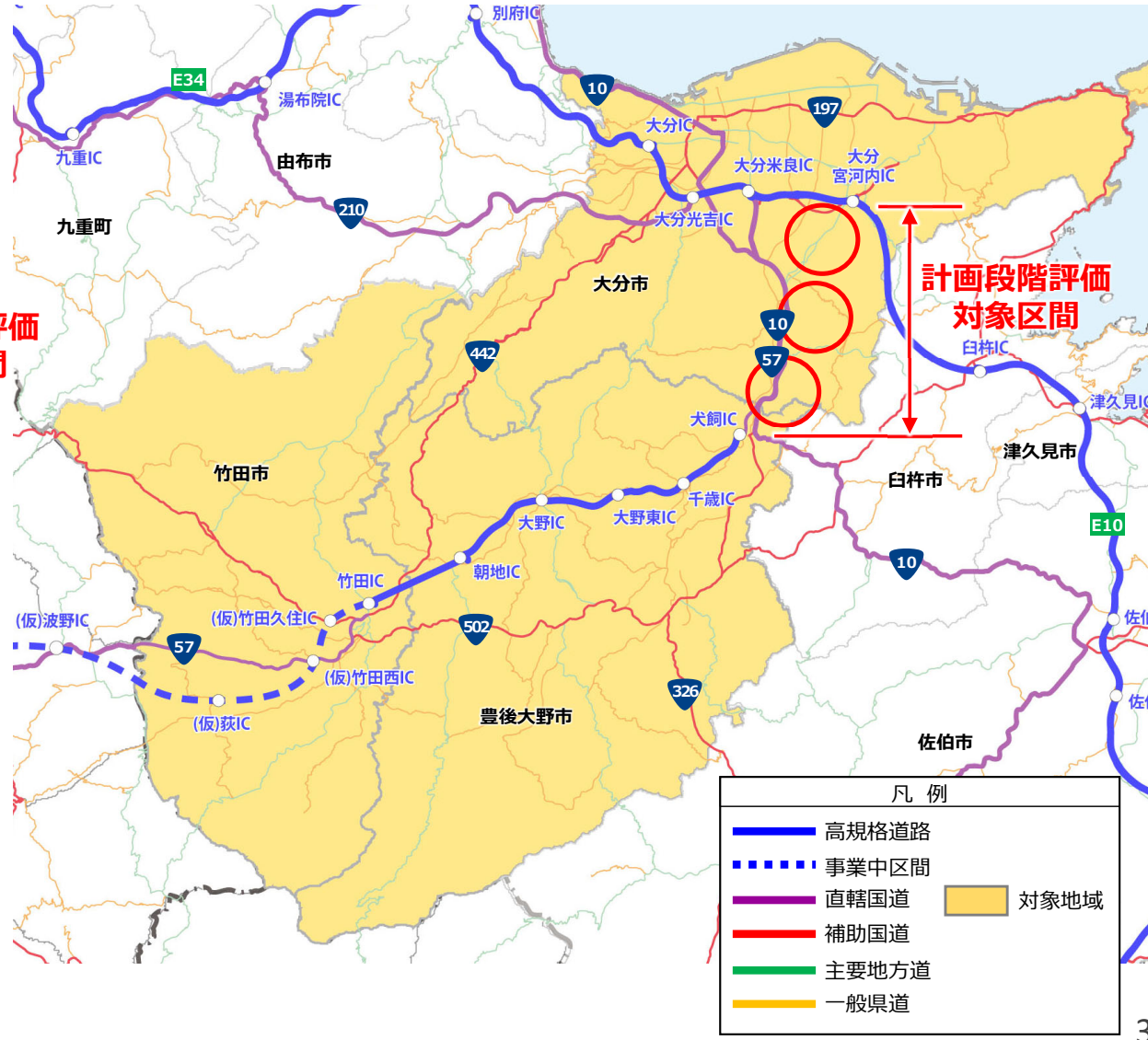
1-1. 評価対象区間<対象区間の概要>

- 対象区間は、大分市と熊本市を結ぶ高規格道路中九州横断道路の一部。
- 中九州横断道路は東九州自動車道と九州縦貫自動車道と一体となることで、広域的な道路ネットワークを形成。
- 対象区間は起点側の東九州自動車道との隣接区間であり、大分県内のうち唯一の未事業化区間。

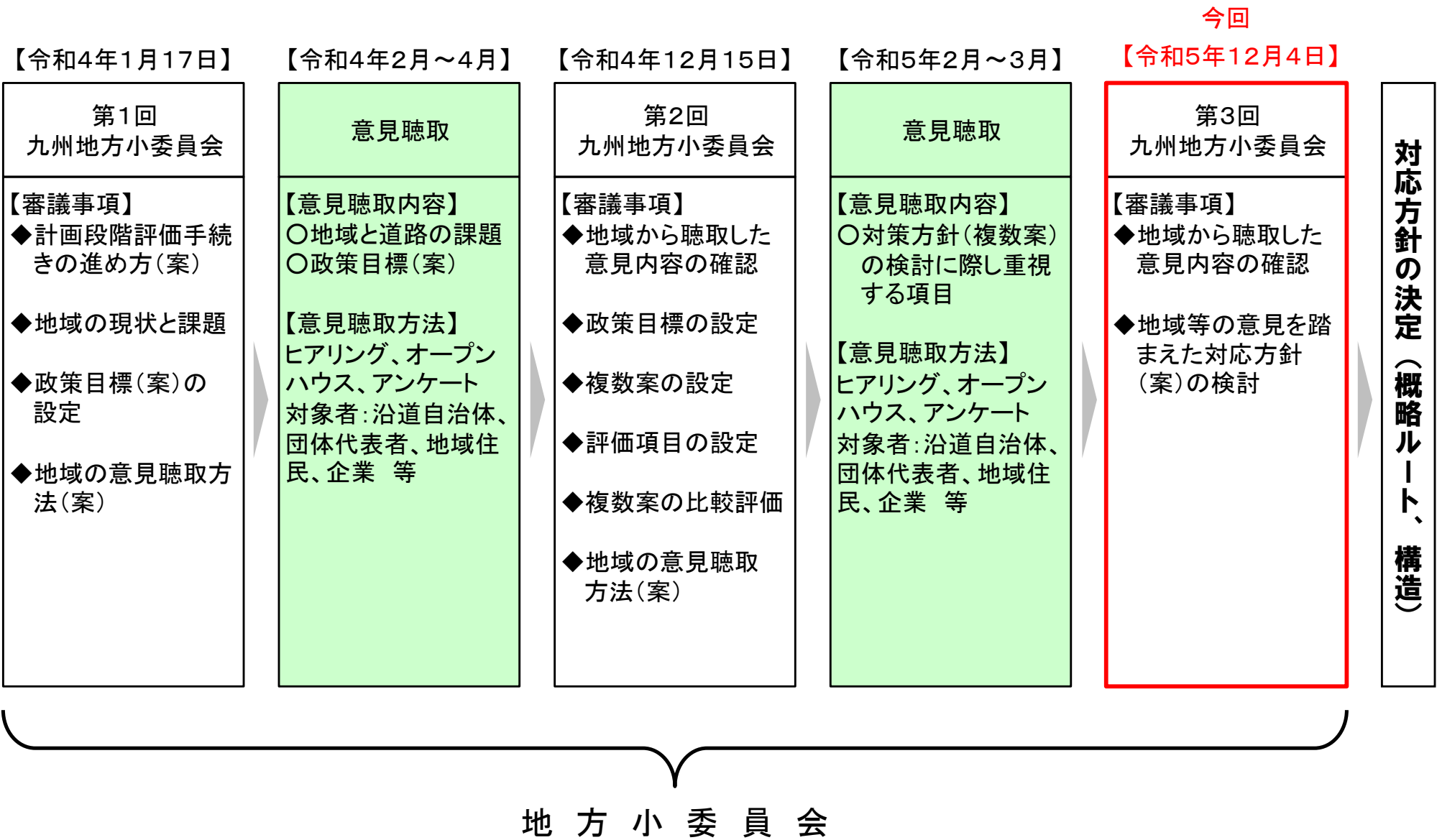
【広域図】



【路線位置図】



1-2. 計画段階評価手続きの進め方(案)



1-3. 前回審議内容〈九州地方小委員会(第2回)〉

■九州地方小委員会(2回目)の概要

○実施日	令和4年12月15日(木)
○主な議題	
①地域から聴取した意見内容の確認	④評価項目の設定
②政策目標の設定	⑤複数案の比較評価
③複数案の設定	⑥地域の意見聴取方法(案)

■九州地方小委員会(2回目)での審議結果

○政策目標の設定、複数案の設定、評価項目の設定、複数案の比較評価、意見聴取の内容・方法については、妥当と判断する。

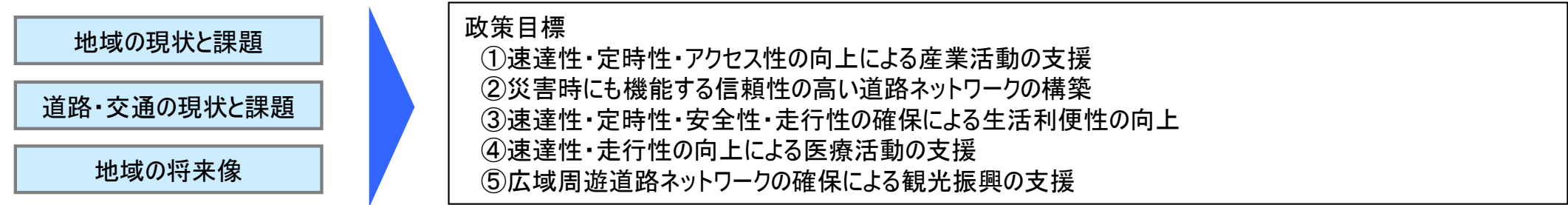
■九州地方小委員会(2回目)での主な指摘事項と対応方法

指摘事項	対応状況
・今後の意見聴取については、各ルート帯案の評価内容を一般の方が理解しやすいような表現を工夫して頂きたい。	・意見聴取に用いる比較表の内容(医療)について、一般の方に理解しやすい表現に修正した。 修正前)大分市内の三次医療施設30分圏域外地域の近傍を～ 修正後)大分市内において30分以内で三次医療施設に到着できない地域の近傍を～

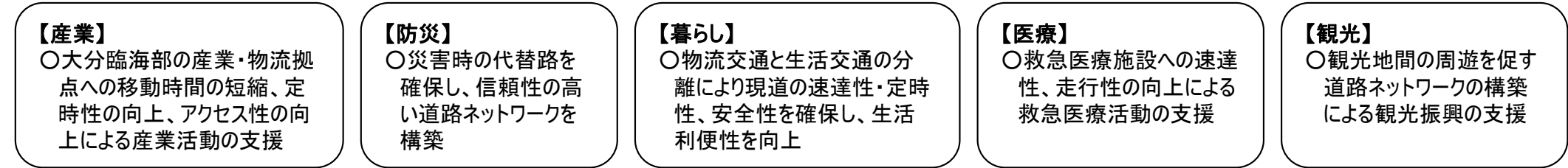
1-4. 政策目標の設定

■ 政策目標の設定

○地域の現状と課題や将来像等を踏まえ、5つの政策目標を設定し、これらの目標を達成するための対策案を検討

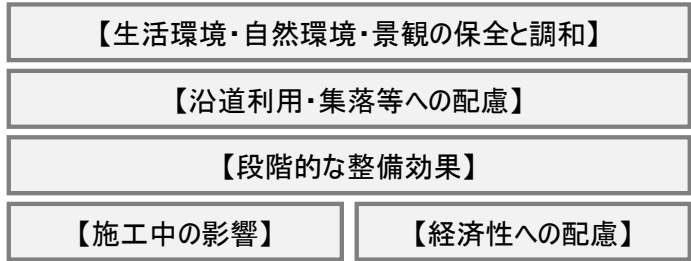


■ 対策案の検討



基本コンセプト: 災害時に機能する信頼性の高いネットワークを構築するとともに、速達性・定時性・安全性・走行性の向上を図り、産業活動や生活利便性の向上、救急医療活動、観光振興の支援を目指す。

■ 対策案を検討する上でのその他の配慮事項



既存の道路ストック活用や別線整備等の対策案を検討

2. 第2回意見聴取の概要

2-1. 第2回意見聴取の概要

■意見聴取期間
令和5年2月2日(木)～令和5年3月31日(金)

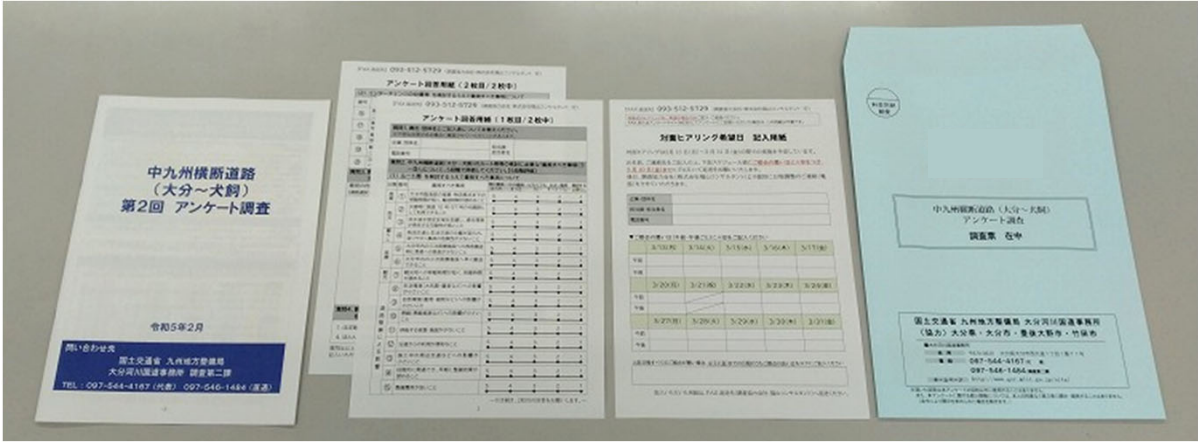
■意見聴取の実施状況

対象	意見聴取方法	実施期間	対象の詳細		回収状況	
自治体	アンケート ヒアリング	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月中旬	大分県、大分市、豊後大野市、竹田市		4自治体	
団体		令和4年2月下旬 ～令和5年3月31日(金)	バス協会、消防本部、農業協同組合、漁業協同組合、警察署、観光協会、商工会議所 等		29団体	全173票
企業			沿道自治体※	製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉 等	129社	
			熊本県	製造業、運輸・郵便業 等	15社	
地域住民 ・ 広域的な 道路利用者	アンケート	令和5年2月下旬 ～令和5年3月31日(金)	計 約7,200戸 大分市:約6,400戸、豊後大野市:約500戸、竹田市:約300戸		3,452票 はがき3,295票 WEB157票	全5,185票
	オープン ハウス	令和5年3月2日(木)、 3日(金)、5日(日)、 6日(月)、7日(火)	計 5箇所 【平日(4箇所)】大分市役所、大分市役所大南支所、 豊後大野市役所、竹田市役所 【休日(1箇所)】パークプレイス大分		602票 (うちWEB:18票)	
	留置き	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月31日(金)	計11箇所 道の駅あさじ、道の駅原尻の滝、道の駅おおの、道の 駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう、 大分市役所、豊後大野市役所、竹田市役所、臼杵市 役所		376票 (うちWEB:81票)	
	HP・市報等	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月31日(金)	大分河川国道事務所HP、自治体HP、市報 等		755票 (WEB)	

2-2. 第2回意見聴取の実施状況 ～自治体・団体・企業アンケート/ヒアリング～

■企業アンケート調査票

【説明資料】 【回答用紙】 【ヒアリング希望日記入用紙】 【送付用封筒】



対象	自治体	団体	企業	
			沿道自治体※	熊本県
配布数	4自治体	53団体	429社	60社
意見聴取数	4自治体	29団体	129社	15社
		全173票		
実施期間	令和5年2月2日(木)～3月中旬		令和5年2月下旬～令和5年3月31日(金)	

※沿道自治体:大分市、豊後大野市、竹田市

■ヒアリング実施状況

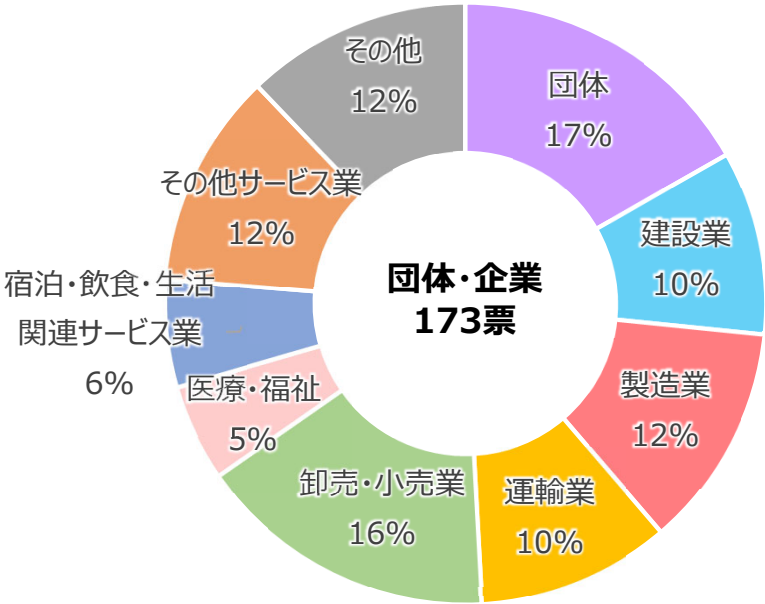


【自治体】



【企業(運輸業):大分市】

■意見聴取団体・企業等の内訳

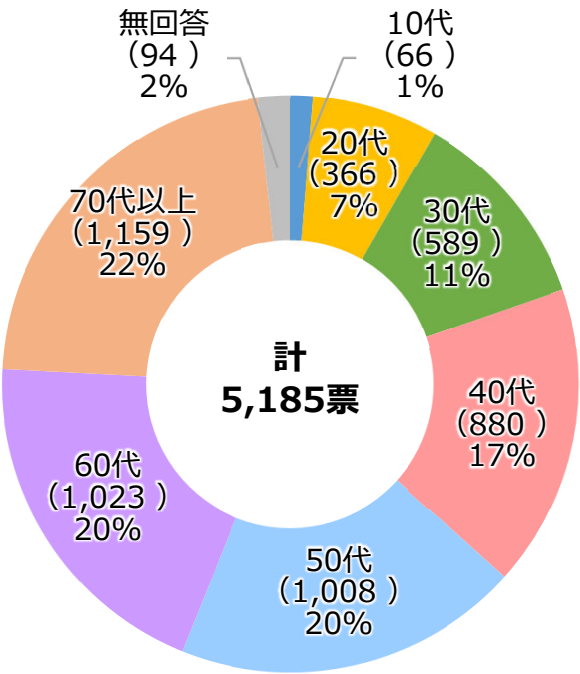


2-3. 第2回意見聴取の実施状況 ～住民アンケート・オープンハウス・留置き・その他～

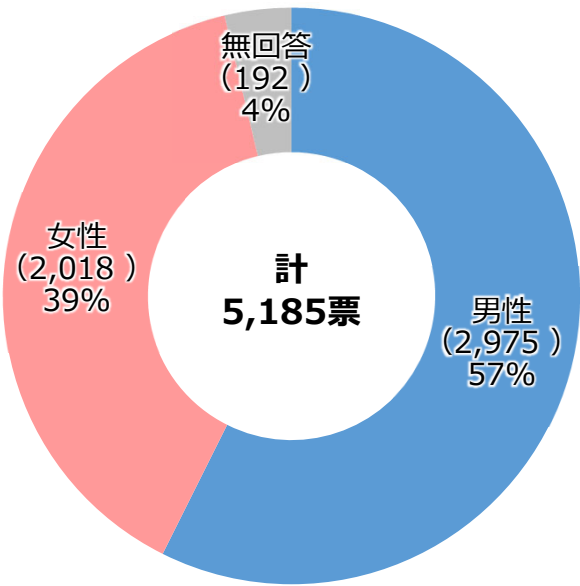
○回収票数は5,185票で、幅広い年代・性別の方から回答を頂いている。
○居住地は、対象地域である大分市・豊後大野市・竹田市で約9割を占めているほか、佐伯市、別府市、日出町などからの回答も得られた。

■回答者の内訳

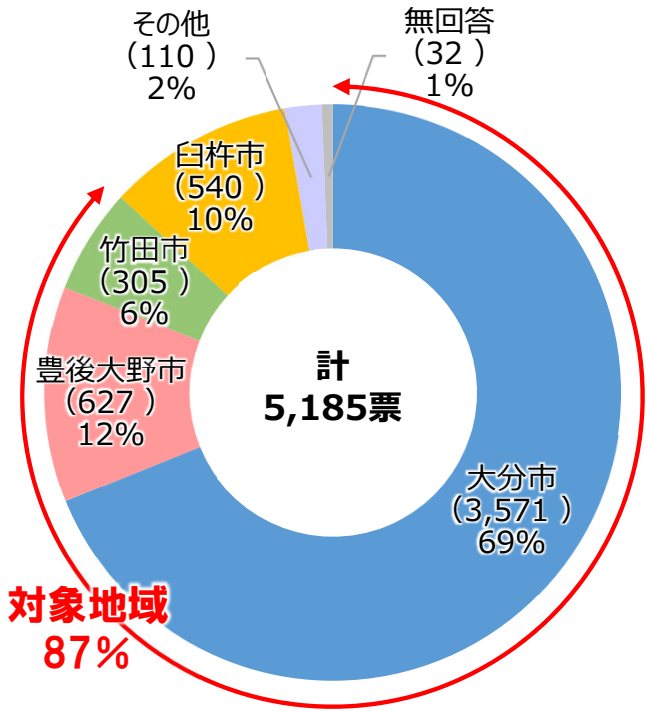
【年代】



【性別】



【居住地】



<参考> その他居住地の内訳 (110件)

佐伯市	21
別府市	14
日出町	10
その他大分県	32
その他九州地方	23
九州地方以外等	10

2-3. 第2回意見聴取の実施状況 ～住民アンケート～

■住民アンケート実施内容

料金受取人払郵便

大分中央局
承認
4434

差出有効期限
令和5年4月
30日まで
(切手不要)

8708790

大分県大分市西大道1丁目1番71号
国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所
中九州横断道路(大分～犬飼)
計画段階評価 事務局 行

下記にチェックおよびご記入をお願いいたします。

◆あなたご自身の事について、記入または該当する番号に○をつけてください。

住所 1. 大分市 2. 豊後大野市 3. 竹田市
4. その他 [] 都道府県 [] 市区町村 []

性別 1. 男性 2. 女性 年齢 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

問1 普段、大分市～豊後大野市間の国道10号・57号をどの程度利用していますか？(単一回答)
1. ほぼ毎日(週4～7回) 2. 週に数回程度(週2～3回)
3. 月に数回程度(週1回以下) 4. ほとんど利用しない
5. 利用したことがない

問2 大分市～豊後大野市間の国道10号・57号を通行する際の、主な移動手段は何ですか？(単一回答)
1. 自動車 2. 公共交通(バス、タクシー) 3. バイク
4. 自転車 5. 徒歩

問3 大分市～豊後大野市間の国道10号・57号を通行する際の目的として、最も多い目的は何ですか？(単一回答)
1. 通勤・通学 2. 仕事(営業・商談・運送など) 3. 私用(買物・食事・通院など)
4. その他 []

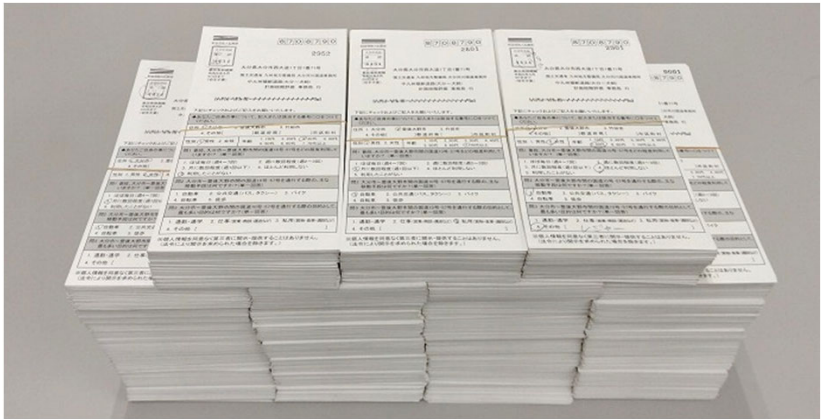
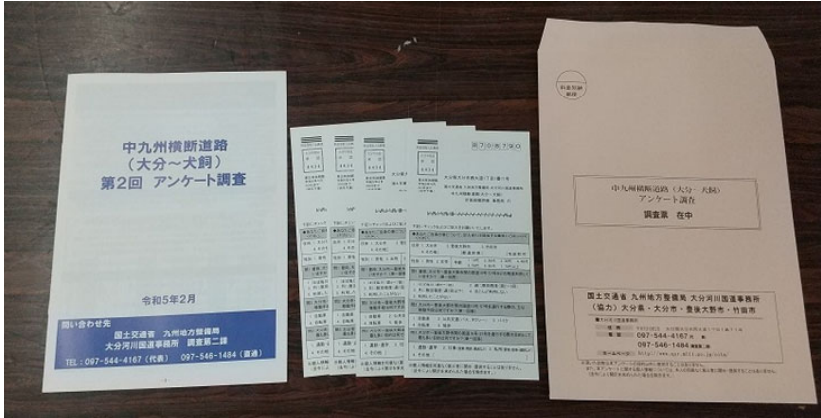
※個人情報同意なく第三者に開示・提供することはありません。
(法令により開示を求められた場合を除きます。)

問4 ①～⑳それぞれについて、該当するものに○をつけてください。ルート帯等の検討に必要な「重視すべき事項」について5段階で評価してください。(5段階評価)

重視すべき事項	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらでもない	あまり重視すべきでない	重視する必要なし
4-1 ルート帯について					
産業 ① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が速いこと	5	4	3	2	1
防災 ② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	5	4	3	2	1
③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	5	4	3	2	1
暮らし ④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	5	4	3	2	1
医療 ⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	5	4	3	2	1
⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	5	4	3	2	1
観光 ⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が速いこと	5	4	3	2	1
⑧ 生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと	5	4	3	2	1
⑨ 自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと	5	4	3	2	1
⑩ 景観・景観資源などへの影響が小さいこと	5	4	3	2	1
⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	5	4	3	2	1
⑫ 沿道からの利用が便利なこと	5	4	3	2	1
⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	5	4	3	2	1
⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	5	4	3	2	1
⑮ 整備費用が安いこと	5	4	3	2	1
4-2 インターチェンジの位置等について					
⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	5	4	3	2	1
⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	5	4	3	2	1
⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	5	4	3	2	1
⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	5	4	3	2	1
⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	5	4	3	2	1
問5 あなたが、上記事項を重視すべきと思う理由や、上記以外で重視すべきと思うことがあれば、ご自由にお書きください。(自由回答)					
意見の内容 【複数選択可】 1. ルート帯 2. インターチェンジ 3. その他	(記入例) ●●が問題となっているため、●●に特に配慮すべきだと思う。				

■住民アンケート調査票・回収状況

【調査票】 【返信用はがき4枚】 【送付用封筒】



対象	地域住民
配布数	大分市:約6,400戸、豊後大野市:約500戸、竹田市:約300戸 (合計:約7,200戸)
意見聴取数	3,452票(うち、WEB:157票)
実施期間	令和5年2月下旬～令和5年3月31日(金)

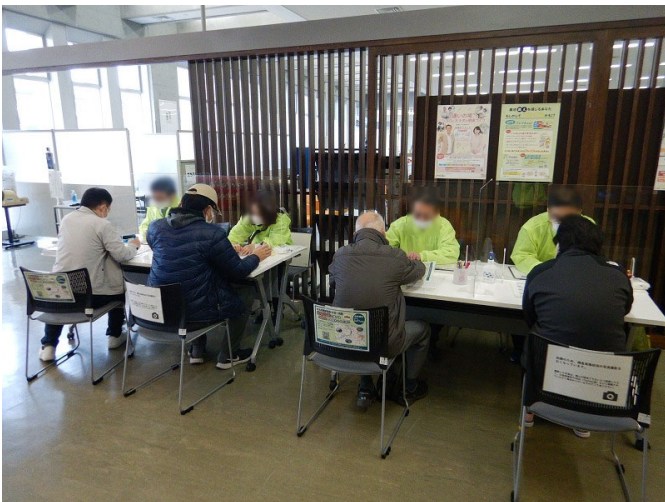
2-3. 第2回意見聴取の実施状況 ～オープンハウス～

■オープンハウス実施状況

<平日>



【令和5年3月2日(木)大分市役所】



【令和5年3月3日(金)豊後大野市役所】



【令和5年3月6日(月)竹田市役所】



【令和5年3月7日(火)大分市役所大南支所】

対象	地域住民、道路利用者
会場	・大分市役所 ・大分市役所大南支所 ・豊後大野市役所 ・竹田市役所 ・パークプレイス大分
意見聴取数	602票(うち、WEB:18票)
実施期間	【平日】:4箇所 令和5年3月2日(木)、3日(金)、 6日(月)、7日(火) 【休日】:1箇所 令和5年3月5日(日)

<休日>



【令和5年3月5日(日)パークプレイス大分】

2-3. 第2回意見聴取の実施状況 ～留置き・その他～

■ 留置き実施状況



【道の駅おおの】



【道の駅みえ】

対象	地域住民、道路利用者
留置き設置箇所	道の駅あさじ、道の駅原尻の滝、道の駅おおの、道の駅みえ、道の駅きよかわ、道の駅竹田、道の駅すごう、大分市役所、豊後大野市役所、竹田市役所、臼杵市役所
HP、施設掲示等	大分河川国道事務所HP、自治体HP、自治体広報誌、大分合同新聞 等
意見聴取数	1,131票 (うち、留置き:376票、WEB:755票)
実施期間	令和5年2月2日(木) ～令和5年3月31日(金)



【道の駅すごう】



【大分市役所】



【臼杵市役所】

2-4. 第2回意見聴取の実施状況 ～広報～

- ①ホームページ：国土交通省大分河川国道事務所、大分県、大分市、豊後大野市、竹田市、臼杵市のホームページに意見聴取のページを開設
②広報ポスター：国土交通省大分河川国道事務所、大分県庁、市役所（大分市、豊後大野市、竹田市、臼杵市）、道の駅等にポスターを掲示
③広 報 誌：大分市、豊後大野市、竹田市、臼杵市の広報誌に掲載
④新 聞：大分合同新聞（令和5年2月2日（木）朝刊）に広告掲載

①ホームページ

○大分河川国道事務所

Press Release

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和 5 年 2 月 1 日
九州地方整備局
大分河川国道事務所

中九州横断道路（大分～大飼）の道路計画を進めるにあたり 地域の皆様のご意見ををお聞かせください

「社会資本整備審議会 建設分科会 九州地方小委員会」において、幹線道路調査の手続きを進めております「中九州横断道路（大分～大飼）」に際し、最良なルート案やインフラチャージの継続位置等を検討する上で重要な「ご意見」を収集するためにこのご意見をお聞かせください。

※計画段階での事業内容については、変更の可能性がございます。変更の対策等の詳細は另行しますので、ご了承ください。

アンケート実施について（住民・一般道利用者の方へ対象）

〇実施期間：下記のとおり

アンケート調査対象者	実施方法
①関係自治体 令和5年2月20日（月）から 令和5年3月31日（日）まで	・概説により配布（郵送等による） ・大分県、豊後市役所等に設置した 情報提供センターのホームページ上にアクセスして回答することによる
②その他の地域にお住まいの方への 道民向け等	・道の駅「あさひ」「唐原の湯」「おおの」「ふゆの湯」「竹田」など、大分市役所、豊後市役所、津久井市役所、臼杵市役所、中津市役所に設置しています。併せて大分にアンケートサイトにアクセスして回答することによる

〇実施方法：アンケート式、対面方式（郵送の別添付も可）

アンケート・ヒアリング開催について（自治体・団体・企業を対象）

〇実施期間：令和5年2月20日（木）から 令和5年3月31日（日）まで

〇実施方法：大分県及び大分市の自治体、中九州横断道路（大分～大飼）の利用が考えられる団体、企業等

〇実施形式：アンケート式、対面方式（郵送の別添付も可）

オープンハウスについて（地元在住のアンケート実施者へ）

〇実施期間：令和5年3月2日（木） から 令和5年3月7日（火）
（平日）9時～16時、（土曜）10時～16時

〇議 考：質疑等、ご意見を伺いながら進められます。前日の17時から大分市国民図書資料館のホームページで参加申し込みをお願いします。

実施場所	実施日程
大分県庁本庁舎	令和5年3月2日（木）
大分県役所大分支部	令和5年3月7日（火）
豊後大分県事務所	令和5年3月3日（金）
津久井市役所	令和5年3月6日（月）
臼杵市役所	令和5年3月6日（月）

【参加】ドライバーズ会等希望者に限ります（要申込）

会場では、豊後大分消防との合同、防災展示も行われます。十分な定員、3席の確保に努めます。

【問合せ先】 国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所

技術課 係長 伊藤 淳哉 係長 佐藤 典三郎 係長 南史

（代表）電話： 097-544-4147 （直通）電話： 097-546-1484 FAX: 097-545-7688

URL: <http://www.mlit.go.jp/oita/>

○大分市HP

[illegible]

○竹田市HP

 **竹田市**
Takeshi City

文芸・学術	医療	観光	防災安全	環境	健康	国際交流
-------	----	-----------	------	----	----	------

くらし・子育て	健康・福祉	産業・まちづくり	子育て・教育	産業・事業創出の支援
---------	-------	----------	--------	------------

機能の中心地 **水産・農林と関係する施設・産業・観光**

- ① 市の行政機関（市庁舎）と周辺計画に基づき開発される商業施設（リーマンパーク）につ

中九州横断道路（大分～大隅）の沿路計画に関する意見募集（ルート帯に対して）について

更新日：2023年02月04日

国土交通省九州地方整備局では、「中九州横断道路（大分～大隅）」に關し、この「ルート帯」のうち、簡便なルート帯やインターチェンジの位置等に必要な事項を考慮することについて、アンケート調査や団体とのヒアリング、オープンパブリックを実施して意見を聴取していきます。

竹田市は、市民参加型の企画運営に出した方針通りに順次進められてます。また、各自治体のエリア計画とも連携しながら、1自治体ごとに、アンケート結果やオープンパブリックを実施しておりますので、みなさまのご協力をお願いします。

○豊後大野市HP

[illegible]

○臼杵市HP



白河市

白河市役所

[サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#)

 Google

検索

[総合トップ](#)
[市政だより](#)
[観光](#)
[ふるさと納税](#)
[防災・安全](#)
[事業案内](#)

中九州横断道路（大分〜犬飼）の道路計画に関する地域の皆様のご意見をお聞かせください

公開日：2023年2月1日
 受付期：2023年2月1日～

中九州横断道路は大分県を起点として豊後高田市、竹田市などを経由し熊本市に至る総延長約120kmの道路です。

この中で、大分県の「中九州」地域にわたる、熊直間・トキモリセンター・チャンスの諸施設近辺を通る見直し上で参考となる「重要すべき事項」についてみなさんのご意見を伺いたくいたします。

アンケート調査

期　間：令和5年2月2日（水）～ 令和5年3月31日（金）

回答の方法：1．白河市役所　白河庁舎 1階　市民ホール 特設ブースで回答（回収ボックス設置）
 2．Webで回答

- アンケートサイトへアクセスして回答してください
- [アンケートサイトにアクセス](#)
- ①知事様からのご挨拶メールにてアンケートURLが記載されています。

②広報ポスター

[illegible]

③ 広報誌

○市報おおいた(3月号)



あそびた
5.1
あそびた
5.1



あそびた
5.1
あそびた
5.1

おかげさまで
70周年



募集

● 中九州横断道路 (大分～犬飼) の
道路計画に関する意見募集

◎ 世帯へのアンケート配布

 無作為に抽出した人に郵送で配布

 回答期限：3月31日(金)

◎ ウェブでの回答▶
(どなたでも)

◎ アンケート配布

 本庁舎1階 正面玄関入口

 回答期限：3月31日(金)

◎ パネル展示・アンケート調査



日時	場所
3月2日(木)	本庁舎1階
午前9時～午後4時	エレベーターホール
3月5日(日)	パークプレイス大分2階
午前10時～午後4時	ガーデンワーク
3月7日(火)	
午前9時～午後4時	大南支所

 都市計画課 ☎537-5967

○大分県HP

④大分合同新聞(令和5年2月2日(木)朝刊)

中九州横断道路(大分～大分)の道路計画を進めるにあたり、地域の皆様のご意見を聞かせください

中九州横断道路は大分市を起点として豊後大野市・竹田市などを経由し熊本市に至る延長約120kmの道路です。本調査は、中九州横断道路(大分～大分)の3つの「ルート」について、最速なルート帯やインターチェンジの位置等の検討に必要な「重視すべき事項」について意見を頂くことを目的としています。お聞きした「重視すべき事項」は、各ルートにおける政策目標等の達成状況とあわせて最速なルート帯等を検討する際の参考とします。皆様のご意見を聞かせてください。

ルート検討の流れ

計画段階評価の
検討範囲
(距離約79～181km)

九州地方
地方小委員会
【第1回アンケート】

九州地方
地方小委員会
【第2回アンケート】

地域の皆様
関係機関
企業等のご意見
アンケート
【第3回アンケート】

アンケート
結果などの分析
まとめ
構想案を
提示し、
最終検討
します。

地域の皆様から
ご意見を
伺います。

回答方法と実施期間

回答は、次の4種類のうちいずれか1つをお選びください。

①大分市・豊後大野市・竹田市内にお住まいの方は、調査票に同封している「速達用はがき」にご記入いただき、以下の項目までご住所を記載し郵便ポストへご投函をお願いいたします。

※本調査でご提出いただいた調査票はすべて無作為に抽選して配布させていただきます

実施期間: 令和5年2月20日(月)から
令和5年3月31日(金)まで

②下記の施設でも特設コーナーを設けており、調査票の入手やWebによる回答が可能です。

実施期間: 令和5年2月2日(木)から
令和5年3月31日(金)まで

③Webアンケートを実施しています。
下記URLまたはQRコードにアクセスしてお答えください。

QRコードはこちら
WebアンケートページのURL
<https://questant.jp/g/ota-inukai-p2>

実施期間: 令和5年2月2日(木)から
令和5年3月31日(金)まで

④オープンハウスでは、事業について説明させていただくとともに皆様のご意見を対面にてお聞きします。
※実施場所と開催は下記参照
(実施時間 平日 9～16時、休日 10～16時)

■事業予定者: 国土交通省 九州地方整備局
福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-7
局長: 藤巻 浩之

計画概要および地域の意見取組に関する問い合わせ先
国土交通省 九州地方整備局
大分市川辺道路事務所 調査第二課
電話/ファクス: 097-544-6141
受付時間: 平日8:30～17:15

※本事業は、環境影響評価法(平成6年法律第81号)に基づく計画段階評価の調査(配慮事項)の実施事業となっており、この意見取組は環境影響評価法に基づく配慮事項についての意見取組の手続きを目的として実施することはありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

■大分市 市役所本庁舎 10月2日(火)
市役所大南支所 3月7日(火)
バークプレイス大分 3月7日(火)

■豊後大野市 市役所 3月3日(金)

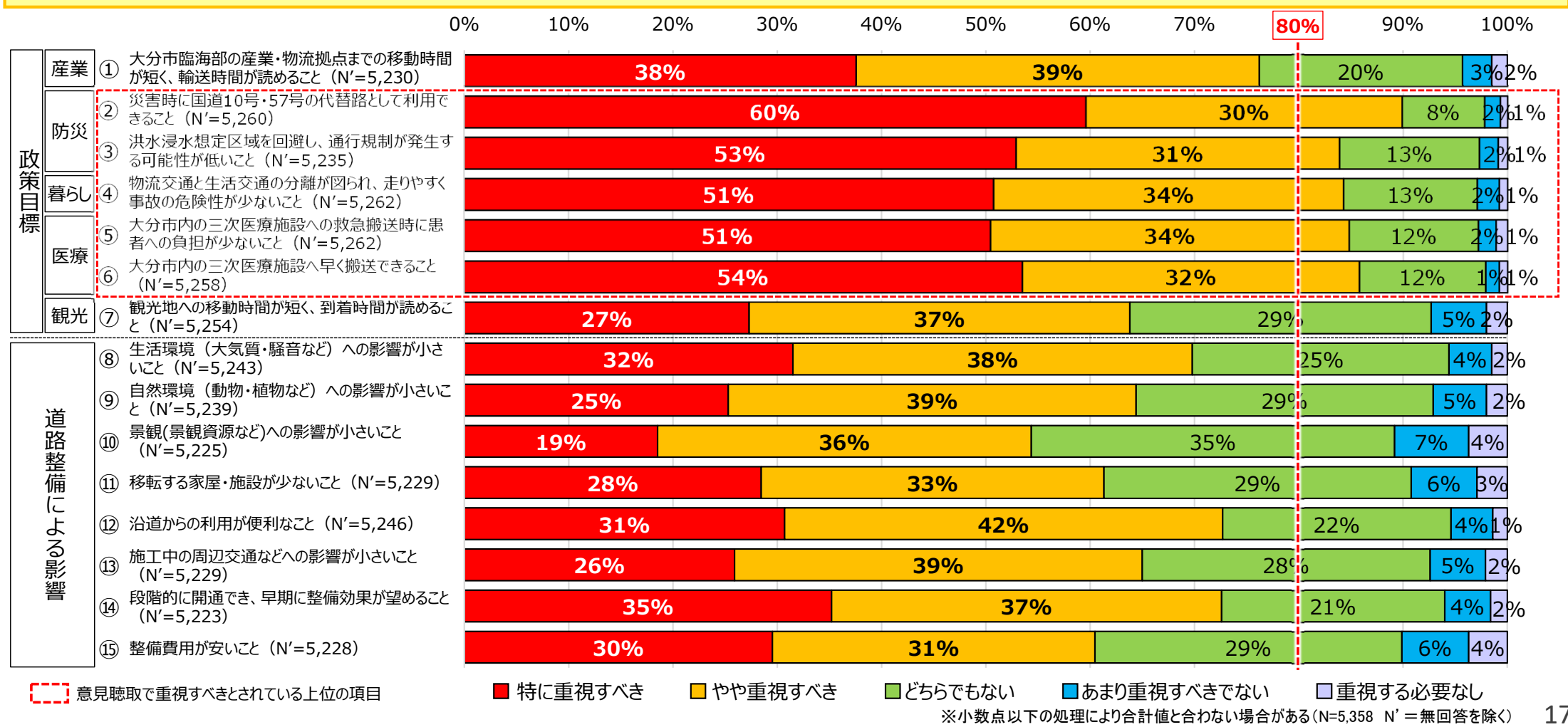
■竹田市 市役所 3月6日(月)

3. 第2回意見聴取の結果

3-1. 第2回意見聴取の結果<ルート帯に関すること>

○政策目標については、全ての項目で重視すべきとの意見が6割以上であった。
その中でも、「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑤大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」について、重視すべきとの意見が8割以上と特に多かった。
○道路整備による影響については、「⑩景観(景観資源など)への影響が小さいこと」以外の全項目で重視すべきとの意見が6割以上であった。

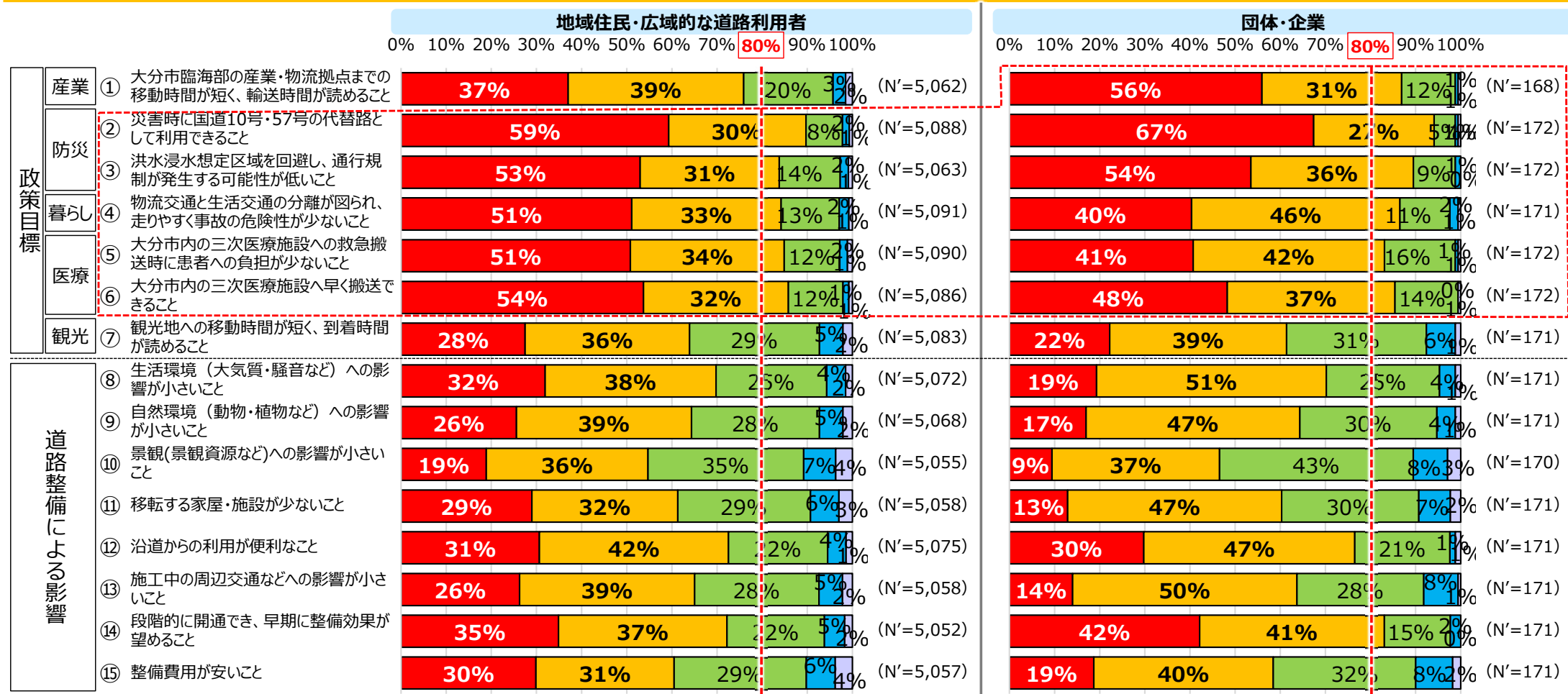
【質問】当該区間のルート帯等の検討に必要な「重視すべき事項(①～⑳)」について5段階で評価してください。



3-1. 第2回意見聴取の結果<ルート帯に関すること>

○政策目標については、地域住民・広域的な道路利用者、団体・企業ともに全ての項目で重視すべきとの意見が6割以上であった。
地域住民・広域的な道路利用者、団体・企業ともに「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑤大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」について、また、団体・企業のうち「①大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること」について、重視すべきとの意見が8割以上と特に多かった。

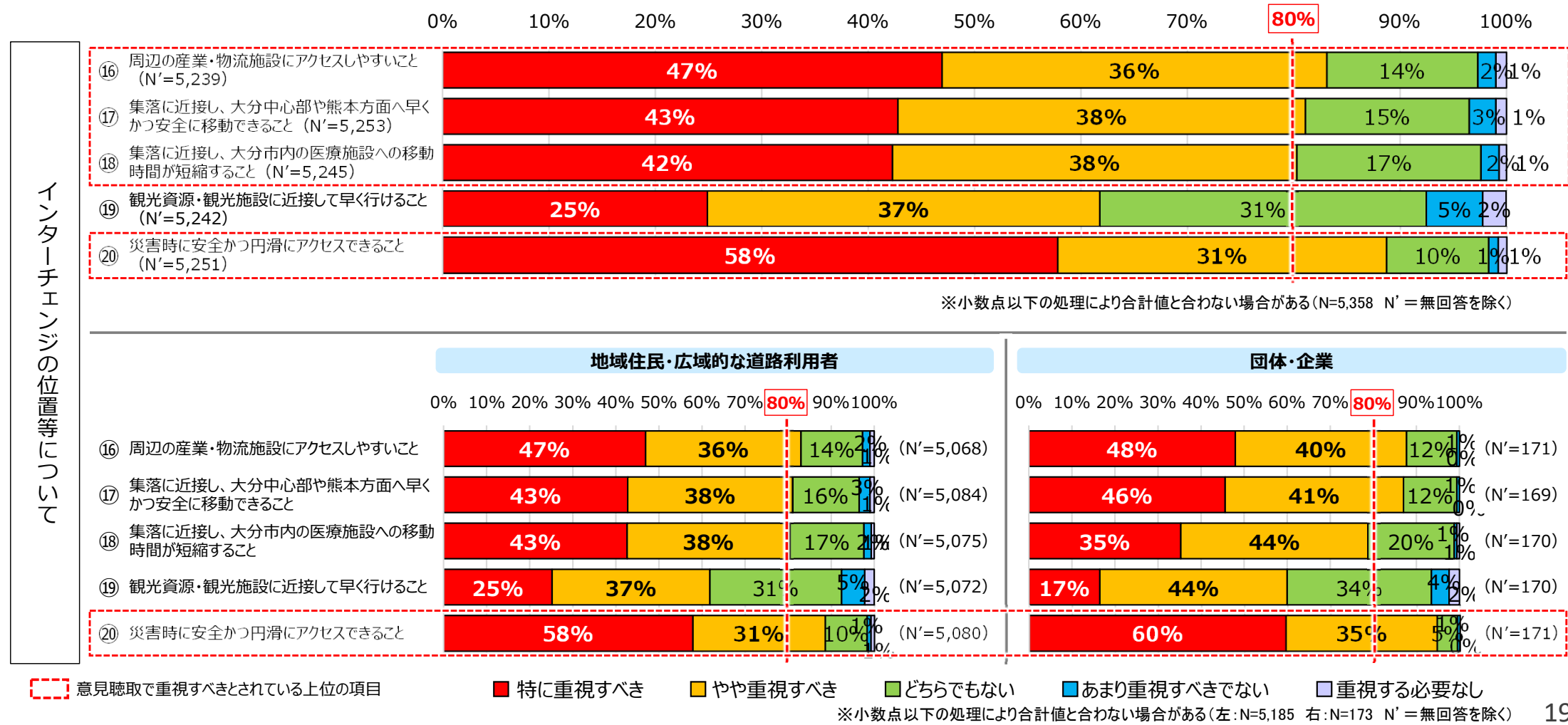
【質問】当該区間のルート帯等の検討に必要な「重視すべき事項(①～⑳)」について5段階で評価してください。



3-2. 第2回意見聴取の結果＜インターチェンジに関すること＞

○インターチェンジに関しては、「①⑥周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと」「①⑦集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること」「①⑧集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること」「①⑨災害時に安全かつ円滑にアクセスできること」について、重視すべきとの意見が8割以上と多かった。
その中でも、「①⑨災害時に安全かつ円滑にアクセスできること」については重視すべきとの意見が特に多かった。

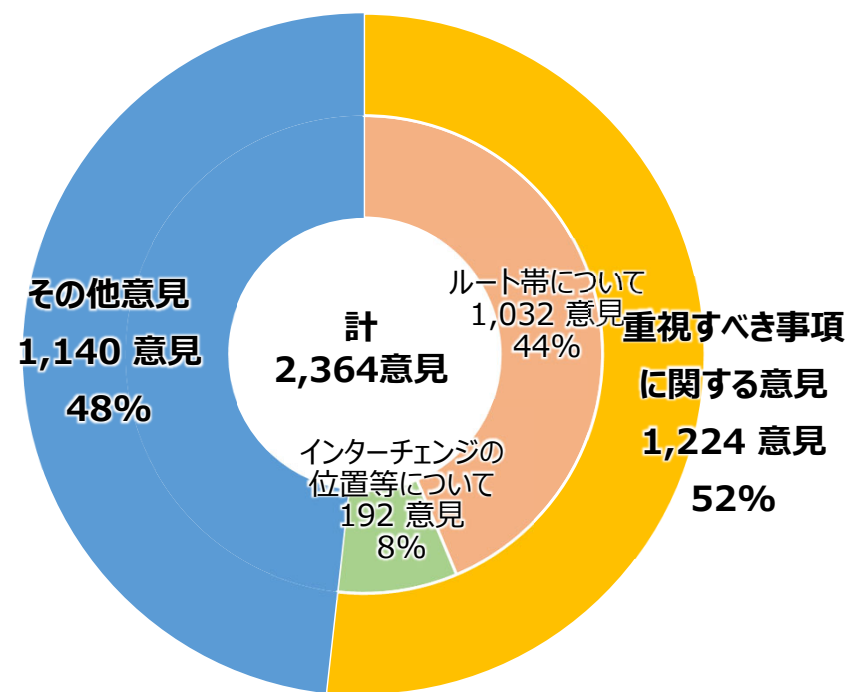
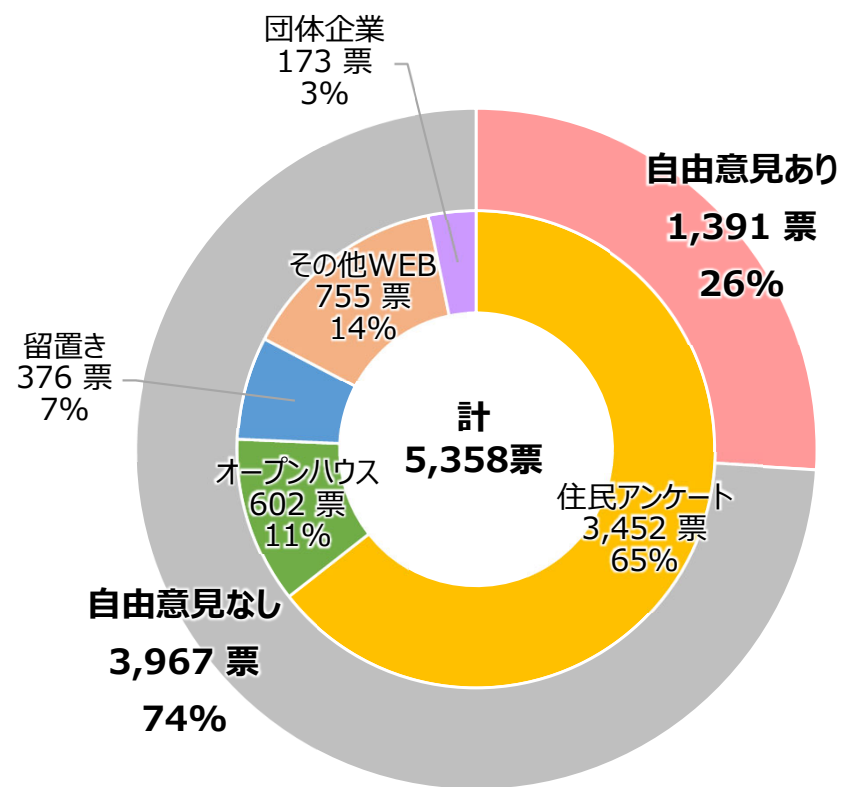
【質問】当該区間のルート帯等の検討に必要な「重視すべき事項（①～②①）」について5段階で評価してください。



3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

○第2回意見聴取において、住民アンケート3,452票、オープンハウス602票、留置き376票、その他WEBアンケート755票、団体・企業アンケート173票、全5,358票を回収した。このうち、自由意見として1,391票(2,364意見)の意見が寄せられた。

○自由意見の内訳として、「重視すべき事項に関する意見」「その他意見」がそれぞれ約5割ずつであった。

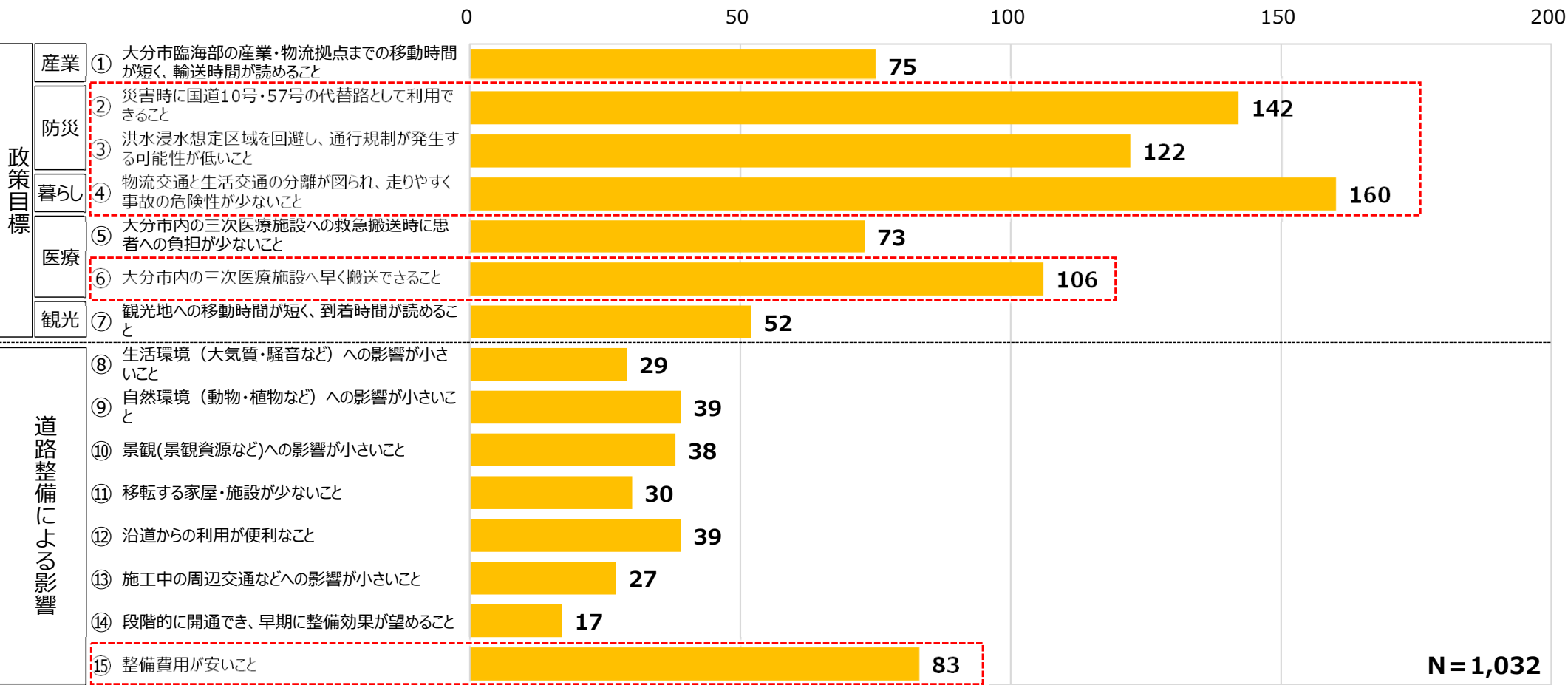


※小数点以下の処理により合計値と合わない場合がある

3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

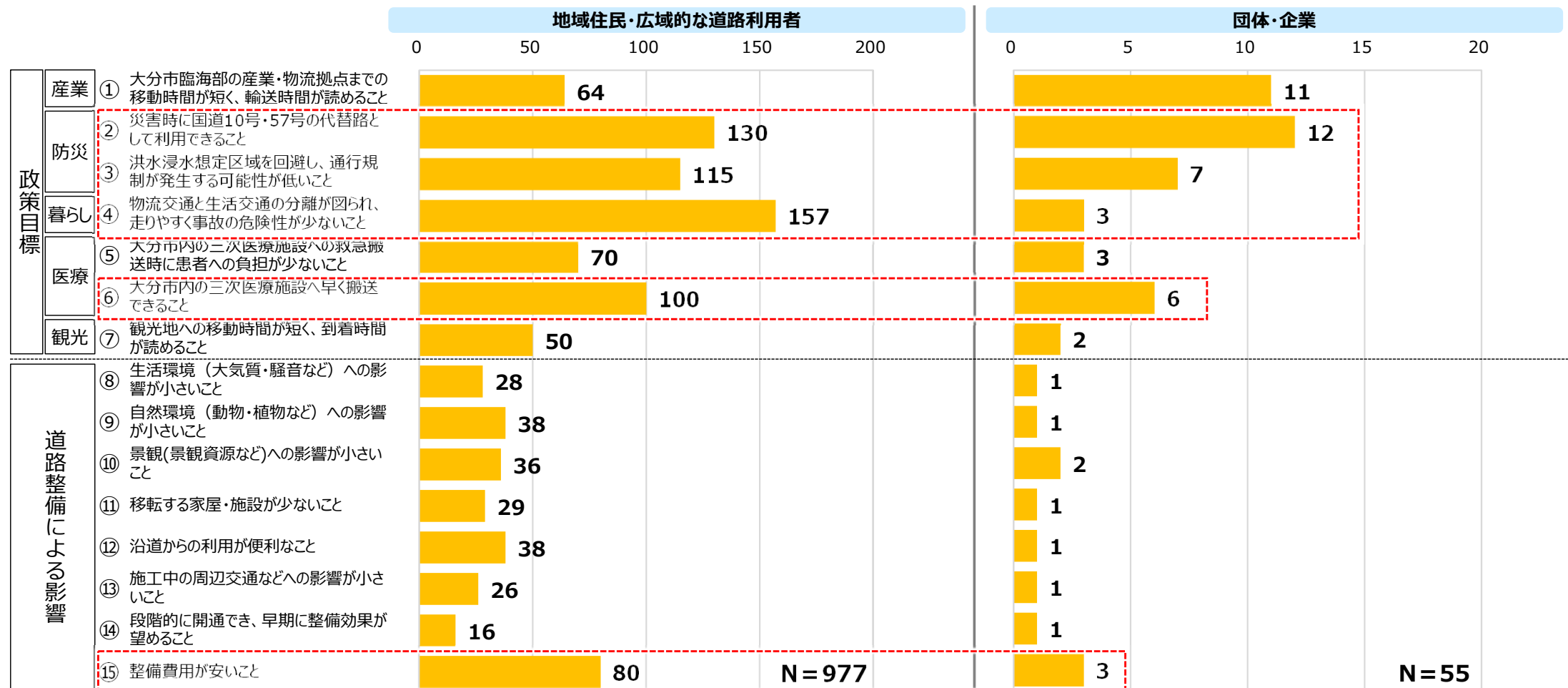
■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見

- 重視すべき事項（ルート帯について）の自由意見としては、1,032意見が寄せられた。
- 政策目標については、「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」に関する意見が多かった。
- 道路整備による影響については、「⑮整備費用が安いこと」に関する意見が多かった。



3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

■重視すべき事項(ルート帯について)に関する自由意見



3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見

 意見聴取で重視すべきとされている上位の項目

重視すべき事項				自由意見
政策目標	産業	①	大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・熊本に半導体関連企業がで、大分も九州の東の玄関口として整備を進めているところなので、物流面は最も重視すべき。（大分市/30代男性） ・中九州横断道路は、熊本から大分までの重要路線だと考えています。熊本には、大型のIT企業の立地が明らかになっており、大分にも既存のIT企業が集積していることから、このルートを通じて、大在公共埠頭の物流拠点がさらに重要拠点となり、九州全体の経済活動を支えていく必要があります。（大分市/60代男性） ・運送業の2024問題で、輸送時間を解決するためにも道路整備を迅速に行い、少しでも物流業者の負担を減らしてほしい。（大分市/30代男性） ・企業活動を継続させるため、安定した物流ルートの確保が重要。熊本方面に対して、有料高速を利用しなくて良いルート・選択肢ができると、物流企業としては助かる。（大分市/運輸業）
		②	災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・大地震や異常気象による災害に備え、代替路の確保を重視すべき。平時は物流や暮らしに配慮すべき。道路は1本でも多めに越したことはない。（大分市/60代男性） ・南海トラフ地震の発生が心配される中、被災時の避難、またそのあとの復興を早期に達成するためには、災害に強く、交通のリダンダンシーとなる高規格道路を整備する必要性を強く感じる。（大分市/60代男性） ・災害時の物資輸送のためにも複数の選択肢を持つことが重要だと思います。特に大分は地形上、代替道路が少ないのが弱点です。大きな災害が予想される昨今です。よろしく願いいたします。（大分市/50代男性） ・選択する道路が、実質一つである。その他の道は、狭かったり、危険が伴うので、不便である。複数ルートの選択は、災害時の代替えにもなり、安心につながる。（大分市/40代男性） ・大分～大飼間は国道10号しかないため、災害時の代替路としての機能が最も重要と考える。（豊後大野市/団体） ・災害などの緊急時の搬送や物流においてスムーズに早急に対応してほしいと考えるため。いつ起こるかかわからない事態に十分な備えを。（豊後大野市/団体）
	防災	③	洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・大野川流域であるので、洪水や流水を回避することが大事。（大分市/60代女性） ・大野川の川底を綺麗したり堤防を強したり、大雨に対していい準備をしてくれているものの、最近の雨は思いがけないほど強く、人間の想定をはるかに超えてくることが多いです。なので、万が一、氾濫しても安全で安心して通行できる道路を造ってください。（大分市/30代男性） ・近年の集中豪雨を考慮すれば、浸水リスクが低い、かつ土砂災害に強いルートを優先すべきではないか。（大分市/30代男性） ・戸次地区は、特に洪水等発生する可能性が大きいので、通行止めがでないようにするべき。（大分市/70代以上男性） ・災害に強いルートを作してほしい。戸次付近は大雨による冠水被害のイメージがある。（大分市/運輸業） ・災害発生時の交通規制により配送困難事案が多数発生し、物を届けられないこと及び届けられなかった荷物が滞り、その後の復旧に時間がかかることが問題であるため、災害について強く配慮いただきたいと思います。（大分市/運輸業）
		④	物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・大分～大飼間の高速がつながれば下道の渋滞緩和にもつながるし、交通量も減るので早急に作してほしい。（大分市/30代女性） ・中村交差点では大型車による渋滞が発生しており、県道も狭いので危ない。地域住民としては、大型車を分離できるようなルートを整備してほしい。（豊後大野市/70代以上女性） ・現道を運転していると、トラックにあおられることがあるので、分離できるとありがたい。（竹田市/60代女性） ・時間とガソリンの節約のため、短時間で走行できるルートを選んで欲しい。（大分市/60代男性） ・生活交通と物流交通が混在しているので、早朝、夕刻など通行量が増える時間帯は目的地への到着予定時刻が読めないことが問題。2つの交通を分離させ、物流輸送時間を短縮することが求められる。（大分市/卸売・小売業）
	医療	⑤	大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・高齢者の多い地域なので、救急対応に特に重視すべきと思う。早期着工を求める。（大分市/50代女性） ・命に関わることなので重視すべき。（大分市/60代女性） ・カーブや信号は患者の負担になるため、できるだけまっすぐな道がよい。（竹田市/60代男性） ・信号や交差点を回避できれば、加減速や追い越し時の急激なハンドル操作がなく、安定した走行が可能となる。また、患者の容体への影響を軽減でき、搬送中の事故や隊員の負担も解消できる。（豊後大野市/団体）
		⑥	大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・救急搬送がスムーズに行えることが重要と考えます。アルメイダ病院や大分県立病院へのアクセスしやすいルートを確保する必要があると思います。（大分市/60代女性） ・三次医療施設へ早く搬送できることが地域で暮らす人の安心につながると思う。（大分市/50代男性） ・命にかかわるので1分1秒でも早い方がいい。（大分市/70代女性） ・医療面を重視したルートを考えてほしい。（大分市/60代女性） ・大きな病院は大分市の病院に行くので、早くいけることが大事。（豊後大野市/70代以上女性） ・救急搬送が円滑に行われることにより、救うことのできる命があるのであればそれを最優先すべきであると考えます。（別府市/20代女性） ・大分市内への三次医療施設への救急搬送が少しでも早くできることが患者さんの命を救うこととなるため。（大分市/専門・技術サービス業）
	観光	⑦	観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・観光地へスムーズに行けることが重要です。（大分市/70代以上女性） ・観光地への移動時間が短いとうれしいです。特に新幹線がないので。（大分市/30代女性） ・観光地へのアクセスや大分市内へのアクセス向上。熊本と大分をつなぐ道路の早期完成を望む。（熊本県大津町/30代男性） ・観光面での経済効果は特に重視すべき。（大分市/製造業）

3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

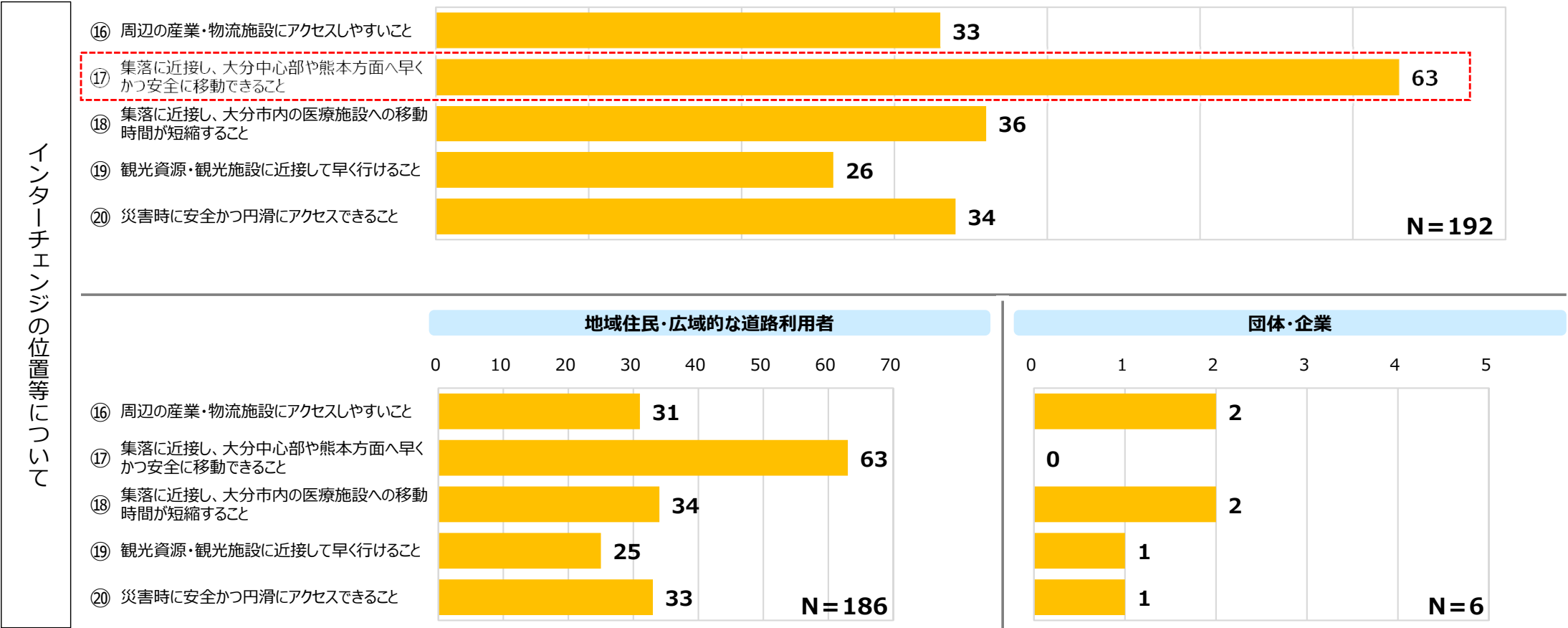
■重視すべき事項（ルート帯について）に関する自由意見

重視すべき事項			自由意見
道路整備による影響	⑧	生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと	・周辺の集落には騒音が少ないように配慮して頂きたい。(大分市/60代女性) ・なるべく人家の少ないところを迂回し、付近の住民に騒音の被害が出ないようにしてほしい。(大分市/60代男性) ・沿線で、車の振動をひどく感じる事が無いようにするべきだ。(臼杵市/20代女性)
	⑨	自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと	・人目線で道路を作っていますが、そこに住む野生動物のことも考えた上で、ロードキル問題を少なくしてもらいたい。人間だけの道ではない。(豊後大野市/40代女性) ・利便性が向上するのはよいことだが、自然環境に十分配慮してほしい。(大分市/70代以上女性) ・自然環境への影響を極力抑えた計画にするべき。(臼杵市/40代男性)
	⑩	景観(景観資源など)への影響が小さいこと	・自然豊かな所も素敵な場所ですごく魅力だ思う。便利さももちろん大切だが、自然保護景観も大切にして欲しい。(大分市/50代女性) ・山側の景観は大事にしてほしい。(竹田市/60代男性) ・環境や景観資源などの配慮は重要であると考えます。(臼杵市/40代女性)
	⑪	移転する家屋・施設が少ないこと	・早期完成を考えれば、移転補償が少ない方がいいと思います。(臼杵市/50代男性) ・整備費が抑えられても、移転補償費が増大することも懸念されるので、極力移転が生じないルートが望ましいと考える。(大分市/30代男性) ・宮河内～犬飼まで、できるだけ人家の立ち退き等を避けて用地問題を少なくし、早く開通してほしい。(大分市/70代以上男性)
	⑫	沿道からの利用が便利なこと	・周辺自治体からの沿道アクセスを考慮したルート帯やインターチェンジの位置決定をお願いします。(大分市/30代男性) ・幹線道路や乗り降りすべきところ、乗り降りできると便利なところに接続されるとよい。(竹田市/40代男性) ・沿道からの出入りが自由にできた方がよい。(竹田市/70代以上男性)
	⑬	施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・工事中の規制によって周辺道路が混雑すると困る。(大分市/50代女性) ・施工中も既存の国道10号を今と同じように使い続けられるようにしてほしい。(豊後大野市/60代男性) ・開通後に便利になることを考えれば工事の影響は多少は仕方がない。(竹田市/60代女性)
	⑭	段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・部分的にでも開通して早く利用できるほうが利用者にとってはうれしい。(大分市/20代男性) ・小さい効果が少しずつよりも、ある程度効果が出る区間で開通する方がよい。(竹田市/30代女性) ・段階的でもいいので、早く開通して欲しい。生きている間にも整備して欲しい。(竹田市/60代男性)
	⑮	整備費用が安いこと	・税金はなるべく安く使ってほしい。(大分市/30代男性) ・効果を確保したうえでなるべく安いものがよい。(大分市/60代女性) ・建設後の維持、管理費の負担を少なくなるよう計画をお願いします。(大分市/50代男性)

3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

■重視すべき事項（インターチェンジの位置等）に関する自由意見

○重視すべき事項（インターチェンジの位置等について）の自由意見としては、192意見が寄せられ、「⑰集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること」に関する意見が多かった。



3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

■重視すべき事項（インターチェンジの位置等）に関する自由意見

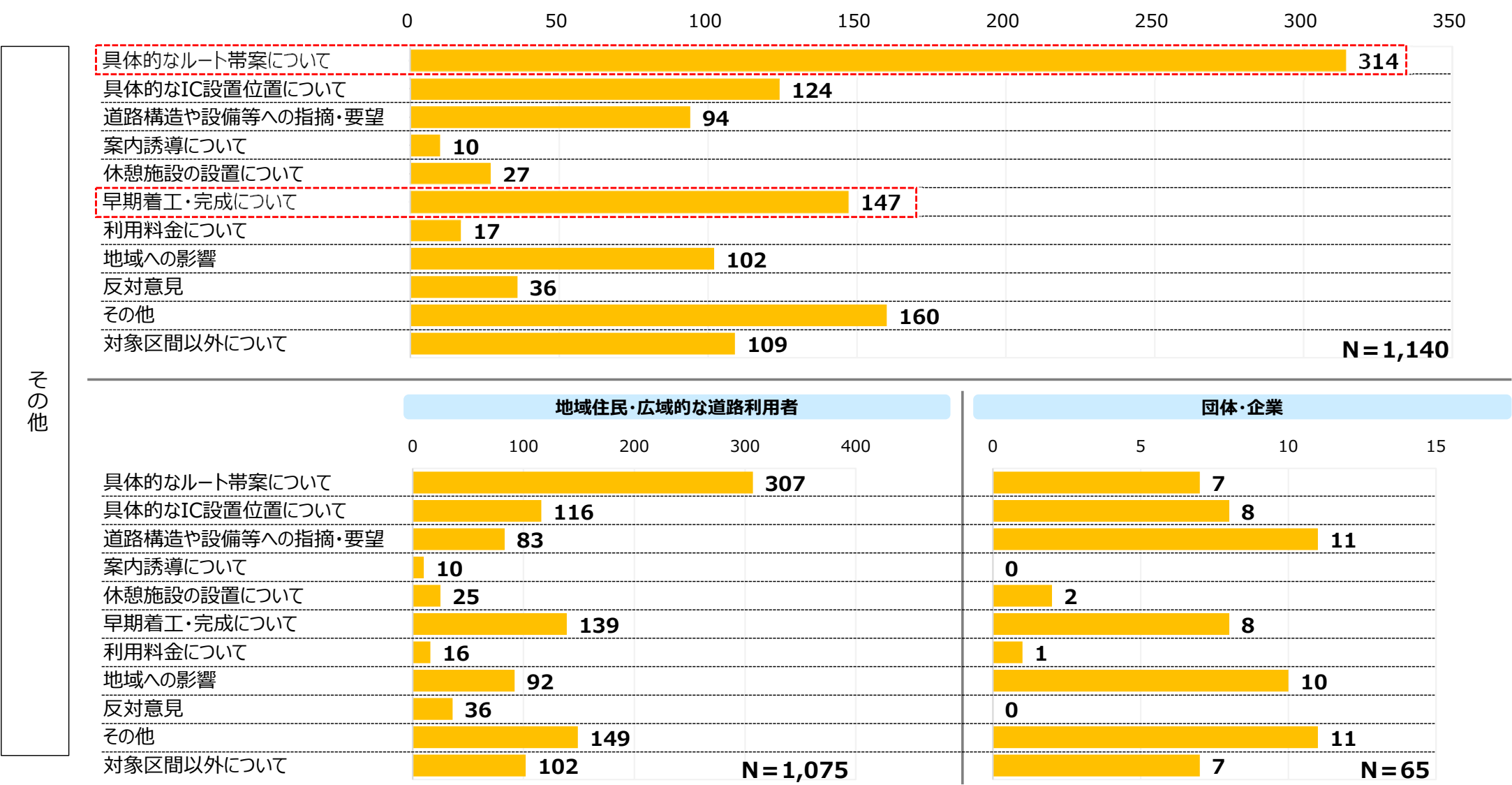
 意見聴取で重視すべきとされている上位の項目

重視すべき事項		自由意見
インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・大型車は整備区間に転換してほしいので、大型車が使いやすい位置に作してほしい。（大分市/60代女性） ・戸次の企業にアクセスしやすいように。（大分市/30代男性） ・物流などを考えると、臼杵市街地や臼杵港にもアクセスがしやすいルートや追加ICを設置してほしい。（臼杵市/50代男性） ・重要な施設への接続もさることながら、近隣市町などの産業や港などへのアクセスも重視して、大分県全体の振興につなげてもらいたい。そういった意味では臼杵港のフェリー利用が多いことには目を向けてもらいたい。（臼杵市/50代男性） ・大在埠頭～流通業務団地～戸次など、周辺産業にアクセスしやすいこと。（大分市/製造業）
	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・インターチェンジは集落から便利の良い所に作って欲しい。（大分市/50代男性） ・大分中心部へのアクセスを考えたインターチェンジをつくってほしい。（大分市/70代男性） ・吉野地区からアクセスしやすいところに設置してほしい。（大分市/70代以上男性） ・臼杵市側のアクセスがほしい。移動の幅が広がる結果、地域経済並びに私生活が有意義になる。（臼杵市/50代男性） ・インターチェンジの位置が集落に近く、数が多いほど便利になるが、多すぎると合流での事故が心配。（豊後大野市/60代女性） ・大分市中心部へ買物に行くことが多いので、インターの設置位置を考慮して欲しい。（豊後大野市/60代男性）
	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	・医療施設への移動時間が短くなることが重要。（大分市/70代以上男性） ・病院へ行くためや救急車のためにも便利な場所にICを作るべきだと思います。（大分市/40代女性） ・高齢化社会の中、平等に充実した医療を受けやすい交通手段の実現を望みます。（大分市/60代女性） ・人命にかかわることは大事。（竹田市/60代男性） ・大分市内への三次医療施設への救急搬送が少しでも早くできることが患者さんの命を救うこととなるため。（大分市/専門・技術サービス業）
	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・大分は観光地へのアクセスがよくないので、アクセスしやすいところにICを設置してほしい。（大分市/40代女性） ・立ち寄りしたいところ、人が集まるところへのアクセスが便利になる位置に乗り降りできるICができるのがいい。（竹田市/40代男性） ・観光資源である戸次本町付近の散策などに誘導できるような場所に設置してほしい。（大分市/70代以上女性）
	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	・集落で災害・救急発生時に安全で最も早く中九州横断道路に出られるようにしてほしい。（大分市/70代以上男性） ・災害時の安全な避難に重点を置くべきだと思います。（大分市/50代女性） ・災害時に確保できるルートやインターチェンジであること。（大分市/60代女性） ・中間ICを作る場合は、災害時にもちゃんと使えるところに作ってほしい。（豊後大野市/50代男性） ・住民ファーストの観点から、防災対応力の強化に資することを最優先した上で、できるだけ周辺住民への負担を減らすことを配慮することが肝要と思う。（大分市/60代男性）

3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

■重視すべき事項以外の自由意見

○重視すべき事項以外の自由意見としては、1,140意見が寄せられ、「具体的なルート帯案について」「早期着工・完成について」に関する意見が多かった。



3-3. 第2回意見聴取の結果＜自由意見＞

■重視すべき事項以外の自由意見

その他	自由意見
具体的なルート帯案について	・ルート帯については既存の住宅、施設等に支障の少ない条件をクリアすべきで保障費に予算をかけない工夫が必要。案①山側ルートを推すが自然環境保全には最大限工夫してほしい。早期実現には案①山側ルートがベスト。（大分市/60代男性） ・洪水浸水想定区域を回避し、災害時に安全走行できる案①山側ルートが良いと思います。（大分市/50代女性） ・案②平地ルートを希望する。一般道よりアクセスしやすい。（大分市/60代女性） ・案③を希望します。費用が安いことが最重要。案①②は完成時期が遅くなるためNG。（大分市/70代男性）
具体的なIC設置位置について	・中判田の国道10号及び10号バイパスへのアクセスができるようインターの設置をお願いしたい。（竹田市/60代男性） ・吉野に住んでいるので、インターチェンジが近くにできると嬉しいです。（大分市/20代男性） ・犬飼～宮河内の中間地点である戸次地区にインターチェンジがあると利便性がよい。（大分市/60代男性） ・物流面で臼杵・八幡浜利用者が便利のように、臼杵に近いところにインターチェンジを作っていただきたい。（臼杵市/60代男性）
道路構造や設備等への指摘・要望	・道路幅員は広めで片側一車線通行はやめてほしい。最低でも二車線通行として追い越し車線を作るべき。（大分市/50代女性） ・渋滞をさけるために必ず2車線が必要かつ重要。インターチェンジは合流しやすく施工すべき。年配者などが判別しやすく、変則的なつくりは避けるべき。（大分市/40代男性） ・できるだけカーブが少なく、短時間で移動できること。登坂車線を数か所設けてほしい。（豊後大野市/60代男性）
案内誘導について	・インターチェンジ周辺の状況が分かりやすく乗り降りに不安がないこと。（大分市/20代男性） ・観光地への分かりやすい案内。（大分市/50代女性） ・使用頻度が低いので、わかりやすくお願いします。（大分市/30代女性）
休憩施設の設置について	・道の駅を増やして頂きたいです。（大分市/50代女性） ・サービスエリアを1～2か所作っていただきたい。（豊後大野市/70代以上女性） ・途中に休憩施設がないと不便なので、道路を作るときはそこも考慮してほしい。（大分市/70代以上女性）
早期着工・完成について	・熊本まで早く着工完成してほしい。（豊後大野市/70代以上男性） ・防災、医療、暮らしの面で早期に必要なと思います。全面開通してください。（大分市/50代女性） ・何事もスムーズに円滑にできるように。早めの完成を願っています。（大分市/70代以上女性） ・現状、戸次～犬飼間は高速で走行する車が多く危険なため早期着工を希望します。（竹田市/50代女性）
利用料金について	・今までどおり無料で通行できるなら利用するが、料金がかかるなら結局他の道で渋滞してしまうと思う。（大分市/50代女性） ・高速利用料金が安いことが利用者にとって一番重要なこと。（大分市/40代男性） ・現在開通している区間は地元民の生活道路として定着しているため、全線開通になった際には料金等どうなるのかははっきりさせてほしい。できることなら今のまま生活道路として料金がかららずに利用したい。（豊後大野市/30代女性）
地域への影響	・竹田市は企業がないことが問題になっている。企業誘致に役立てる道路になってほしい。（竹田市/30代男性） ・別ルートだと既存地域の過疎化が進む心配あり。（大分市/70代以上男性） ・中九州横断道路周辺にお店が少ないので、地域活性化や少子高齢化防止の観点から、特産品や郷土料理などのお店があれば良いと思う。（大分市/30代女性）
反対意見	・現状あまり混雑を感じることもないので、自然保護、予算の有効利用を重視すべきと思う。（大分市/40代男性） ・豊かな自然を壊して、高速道路を建設するのは反対です。田舎の静かな暮らしを破壊しないで欲しい。動植物への影響を軽視しないで欲しい。（大分市/60代女性）
その他	・特に、近隣地区住民の意見や要望を反映しながら推進していただきたい。（大分市/70代以上男性） ・産業、物流の安定輸送も大切ですが、交通弱者、歩行者や自転車の通行に十分配慮した道路づくりが大切だと思います。（大分市/60代男性） ・地域高規格道路の効果や必要性は理解できるが、整備後の維持管理体制も計画段階で考慮すべき。（大分県中津市/60代男性）
対象区間以外について	・高速を作るなら最低2車線にしてほしい。新しい道より既存の高速を先に2車線にしてほしい。（大分市/20代男性） ・熊本県への時間短縮を期待しています。熊本県側の中九州横断道路の開通にもっと関心をもってもらいたい。（大分市/50代男性） ・国道10号、大分市大学前から中判田まで2車線工事を早急に対応する方がいい。（大分市/60代女性）

3-4. 第2回意見聴取の結果＜自治体への意見聴取結果＞

■大分県

重視すべき事項				意見
ルート帯について	政策目標	産業	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・熊本を中心とした円滑で強靱な半導体サプライチェーンの構築には、大分臨海部の半導体関連企業群との移動時間の短縮や災害時でも安定的な輸送の確保が必須である。大分県版地方創生を加速するためには、山側ルートによる安定的な定時性・速達性の確保が必要である。
		防災	② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・国道10号・57号（緊急輸送道路）の代替路を確保し、救助・救援活動を支えるほか、サプライチェーンの断絶による産業面への影響を最小限に抑える必要がある。そのためにも、災害リスクが低い別線整備が有効と考える。
			③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・災害時における物資や人員の輸送を円滑に進めるためにも、通行規制を最小限に抑え、災害に強いネットワークの構築が必要である。そのためにも、浸水想定区域を回避する山側ルートでの整備が望ましい。
		暮らし	④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・中村交差点付近では慢性的な渋滞や追突事故が発生しており、交通事故が発生しにくいルート帯を選定することが重要である。さらに、物流交通と生活交通の分離は渋滞緩和や安全性の向上につながることから、別線整備が望ましい。
		医療	⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・救急患者の救命率向上や予後の改善を図るためには、早急に医療機関へ搬送する必要がある。そのためにも、救急車の停止や減速を回避する別線整備が望ましい。
			⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・急性期には早急に適正な診断を開始することが救命率の向上や予後の改善につながるため、30分圏域外の地域から三次救急医療機関までの速達性向上や三次医療施設30分圏域人口の拡大が最も見込まれる山側ルートが望ましい。
		観光	⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・速達性・定時性の向上は、新たなツアー造成等により各観光地への周遊促進につながることから、効果の高い別線整備が望ましい。
	道路整備による影響	⑧ 生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと	・自動車走行に伴う騒音は周辺に影響を与えることから、住居・病院・福祉施設等に配慮したルート帯の検討が必要であり、影響の程度が最も小さい山側ルートが望ましい。	
		⑨ 自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと	・対象区間には希少な動植物の種が生息又は生育している可能性があり、特に平地ルート及び現道拡幅付近には、重要な動物種の生息地及び重要な植物種・群落の生育地が点在している。可能な限り自然環境への影響の回避・低減を図るため、環境影響評価の結果を勘案して適切に判断して頂きたい。	
		⑩ 景観(景観資源など)への影響が小さいこと	・平地ルート及び現道拡幅には、大分市景観計画において重要地区に設定された歴史的まちなみの残る戸次本町、一級河川の大野川や神社仏閣など多くの景観資源が存在する。これらの景観資源への影響を回避した山側ルートが望ましいが、観光名所の吉野梅園に配慮した検討が必要である。	
		⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・用地交渉の難航や補償物件移転の遅れにより、事業進捗の遅延が懸念される。地域住民の負担を軽減し、着実に事業を展開するためにも、移転等が少ない山側ルートが望ましい。	
		⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・沿道からのアクセス性が高い現道拡幅よりも、定時性・速達性が高い別線整備とし、中間ICを設置して沿道からのアクセス性を確保して頂きたい。	
		⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・国道10号は交通量が約28,000台/日と県内でも交通量が多く、大型車混入率も高い幹線道路である。産業・生活・医療・観光への影響を考慮し、施工に伴う現道への影響は可能な限り抑制すべきである。	
		⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・計画延長が約20kmと長いことから、整備効果を発現するためにも段階的な開通が必要であり、そのためにも中間ICの整備を望む。	
		⑮ 整備費用が安いこと	・政策目標を達成するために最適なルートを選定した上で、より経済的な構造を検討するなど、コスト縮減が図られることを望む。	
インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・中間ICは臼杵市が整備を進めている野津東部工業用地や四国方面へのフェリー航路がある臼杵港へのアクセス性を考慮した位置が望ましい。 ・一方、大分宮河内ICへの接続はIC直結構造とするともに、九州の東の玄関口としての拠点化戦略において物流基幹拠点と位置づけている大分港大在地区、臨海工業地域や半導体関連企業群、大分流通業務団地などへのアクセス性を考慮して一般道への接続も希望する。		
	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・集落からのアクセス性向上により地域間交流が生まれ、地域の活性化にもつながる。また、移動時間短縮により通勤可能エリアが拡大し、移住・定住が期待される。		
	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	・急性期には、早急に適切な診療を開始することが救命率の向上や予後の改善に繋がるため、30分圏域の拡大や医療機関までのアクセス性等、地域の実情を踏まえた配置が望ましい。		
	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・臼杵石仏や臼杵城下町などの観光施設へのアクセス性が向上する位置が望ましいが、主要道路からのアクセス性や利便性向上などの配慮も必要である。		
	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	・浸水想定区域など災害リスクのある場所を避け、周辺道路からのアクセス性が優れ、円滑な物資・人員の広域輸送が可能な位置が望ましい。 ・また、大分宮河内IC付近への接続は、広域防災拠点である大分スポーツ公園へのアクセス性を考慮して頂きたい。		
	その他のご意見		・熊本県菊陽町へのTSMC進出を契機に、半導体関連企業の設備投資増強や新規拠点進出が活発化している。本県でも、県内に集積する半導体関連産業や中九州横断道路を強みとして、企業誘致に取り組んでいる。しかし、事業中區間も含めて中九州横断道路の整備期間が示されていないことから、進出を断念した企業もある。今後の県勢発展のためにも、できるだけ早い段階に概ねの整備期間が示されることが重要と考える。 ・また、早期に事業効果が発現されるためにも事業遅延リスクが小さいルート選定も重要である。	

3-4. 第2回意見聴取の結果＜自治体への意見聴取結果＞

■大分市

重視すべき事項				意見
ルート帯について	政策目標	産業	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・九州の東の玄関口としての本市の優位性を生かし、更なる商工業振興を図るため、基幹拠点化・RORO船ターミナルの整備が進む大分港大在地区や大分流通業務団地、その他多数の進出企業等が立地する東部地域のアクセス性の向上は重要である。さらに、世界的半導体メーカーの熊本進出を受け、半導体産業のさらなる集積と産業全体への波及・浸透が予測され、大分市臨海部にアクセスしやすい道路体系が今後さらに必要性を増すと考えられる。 ・農林水産物の速達性や木材等の大型輸送における安全性を向上させるための高規格の物流ネットワークの形成は地域産業振興のため不可欠である。また、移動時間の短縮は、農産物の鮮度維持、輸送コスト低減にかかることから、非常に重要である。
		防災	② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・災害により国道10号、57号の通行ができなくなることを想定すると、別線の道路整備により緊急輸送等が可能となることから、ダブルネットワークの確保は重要である。 ・災害時の多重性・代替性を考慮した広域的な連携に資する道路体系の整備を促進しているため、重視すべき項目である。
			③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・国道10号上戸次付近は交通量が多く、通行規制の影響が大きいことから、災害時にも命を救う道として安心・安全に利用できるよう、被災や通行規制の発生リスクが低いルートの確保が必要。
		暮らし	④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・物流交通と生活交通の分離により、交通渋滞を解消し、事業者の輸送や市民の移動等の効率化を図るとともに、産業用の大型トラック等による重大な交通事故発生リスクを抑え、安全性の向上を図る必要がある。
		医療	⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・自動車専用道路とすることにより、搬送時の加減速の頻度減少に寄与し、患者の負担軽減となることが望ましい。
			⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・大分市内においても三次医療施設の30分圏域外となっている地域もある。人命救助と経過時間の関係からも三次医療施設への到着時間の短縮や30分圏域の拡大は重要であり、地域の医療サービスの向上に寄与することが期待される。
		観光	⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・観光地への移動時間が短く、到着時間が読めることによって、観光地の周遊、滞在時間の増加などが可能となり、観光集客、交流人口の増加に寄与する。 ・観光バス等の速達性・定時性が向上することで、観光客のバス等への信頼性が向上し、利用客の増加による地域の活性化等が期待される。
	道路整備による影響	⑧ 生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと	・自動車の通過交通による排気ガスや騒音については、沿線住民への配慮が必要であり、可能な限り影響する住民が少ないことが望ましい。	
		⑨ 自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと	・可能な限り、貴重な地形・地質や動植物の生息・生育場所などの保全に配慮することが必要である。	
		⑩ 景観(景観資源など)への影響が小さいこと	・中九州横断道路ルート案沿いには、戸次本町地区に国登録の帆足本家住宅や市指定の酒造蔵や県指定の楠木生石造五重塔、中世の薩摩軍の豊後侵入に際し戦いの場となった戸次河原周辺の鶴ヶ城、鏡城、梨尾山など保存すべき史跡が多数あるため、景観に対する影響を最小限にする必要がある。	
		⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・現在住んでいる方の意向を汲んだうえで慎重に進めるべきと考えるが、可能な限り影響する家屋等が少ないことが望ましい。	
		⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・沿道の集落や地域のにぎわい創出、また新規道路の利用頻度を増加させるためにも、起終点だけでなく、沿道からのアクセス性向上を図る中間ICの設置が望ましい。	
		⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・現道である国道10号や57号の施工については、交通量が多いことから、施工時の交通規制等に起因する問題（交通渋滞等）も発生することが想定されるため、生活道路内の交通に影響が少ない別線整備が望ましい。	
		⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・大分～犬飼IC間の延長は長く、全線開通までの時間を要することから、道路整備効果を早期に発揮させるためにも、段階的な供用開始が望ましい。	
		⑮ 整備費用が安いこと	・整備に係るコストも重要であるが、整備後の効果が最大限に発揮されるルートが望ましい。整備効果が十分に図られたうえで、コスト縮減を図るべきである。	
	インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・地域産業や物流施設にとって、広域道路へのアクセスや利便性が高いことは、地元や大分市における産業の活性化においても重要である。インターチェンジができることで、その周辺の土地の開発等が期待されることから、その可能性がより高い山間部にインターチェンジがあることが望ましい。	
		⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・現在、大分中心部と熊本方面に繋がる国道10号や57号から離れた位置にある集落（吉野地区等）により近い位置にインターチェンジができることで、大南地区内のどの位置からでも大分中心部や熊本方面へのアクセスが容易となることが期待できる。	
		⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	・大分市内においても三次医療施設の30分圏域外となっている地域もある。人命救助と経過時間の関係からも三次医療施設への時間短縮や30分圏域の拡大は重要である。	
		⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・大分市指定有形文化財である帆足本家酒造蔵等が立地する戸次本町地区や、吉野梅園のある吉野地区へのアクセスに配慮すべき。	
⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること		・吉野地区は緊急輸送道路である国道10号、57号から離れていることから、緊急時や災害時において吉野地区へのアクセスが容易な位置へインターチェンジを設置することが望ましい。		
その他のご意見				・中九州横断道路と豊予海峡ルートを含めた道路ネットワーク構築が、九州・四国・中国を結ぶ基幹的な交通ネットワークの形成に繋がり、地方拠点の形成や災害時のリダンダンシー効果も増すと考えられる。

3-4. 第2回意見聴取の結果＜自治体への意見聴取結果＞

■豊後大野市

重視すべき事項				意見
ルート帯について	政策目標	産業	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・豊後大野市における企業誘致には必須であり、既存の製造業や流通業においても輸送時間の短縮や輸送コスト削減は重要である。 ・地域産業の振興・発展に欠かせない物流拠点へのアクセス及び移動短縮が図られる道路整備を望む。
		防災	② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・県都である大分市から救助や支援のルートを確認することが豊後大野市にとって重要と考える。 ・冠水による通行規制を経験しており、交通量の多い国道10号・57号線の代替道路としての別線整備が望ましい。
			③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・冠水による通行規制を経験しているため、洪水浸水想定区域内ルートは避け、安全・安心して利用できる道路整備が必要。また、近年の異常降雨等による斜面崩壊対策を行うことが望ましい。現在の緊急輸送道路は浸水想定区域を通過するため案①での整備が望ましい。
		暮らし	④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・日常生活交通道路と物流交通道路の区別化が図られれば渋滞緩和に繋がり、安全性・走行性の向上が期待できる。 ・すべてを分離すると利便性の向上にならないため、生活道路からの乗り入れにも配慮する必要がある。
		医療	⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・生活交通との切り離しにより、救急搬送車両の加減速、速度変化が少なくなることを期待。
			⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・交差点の少ないルート計画とし、到達時間の短縮を図ることが望ましい。 ・速達性の向上により、三次医療施設の到達エリア拡大を期待。
		観光	⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・県外からの本市へ観光客を呼び込むため、東九州自動車道とのアクセスが重要となる。東九州自動車道からなるべく短時間で到着できるようにすべき。
	道路整備による影響	⑧ 生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと	・地域住民への騒音・振動等の影響が最小限となるように配慮すべき。	
		⑨ 自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと	・環境影響調査を行い、絶滅危惧種への悪影響を低減する対策を講じることが望ましい。森林伐採等も極力抑えることが望ましい。	
		⑩ 景観(景観資源など)への影響が小さいこと	・国・県・市町村の指定文化財を避けるルート計画とすることが望ましい。	
		⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・なるべく山間部を通過し、地域住民の日常を変えないようにすべきである。	
		⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・生活道路と区別することが望ましいため、沿道からのアクセス性については必要以上に考慮することはないのではないか。	
		⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・可能な限り地域住民の生活や経済活動に支障がないようなルートを施工するべきである。 ・交通量の多い幹線道路であるため、通行止めを伴う整備計画は極力避けるべき。	
		⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・沿道の渋滞回避等のためにも、工事が完了した区間（IC間）から段階的に供用開始することが望ましい。	
		⑮ 整備費用が安いこと	・コスト削減も重要であるが、効果面を最重要視しないと、せっかく公費を投入しても地域の発展に寄与しない。整備費用が安価なことに超したことはないが、本案件においてはコストよりも効果面・利便性を重要視した方がよい。また、維持管理を考慮したライフサイクルコストも重視することが望ましい。	
インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・地域の産業振興・発展に寄与できるよう、周辺の産業・物流施設からアクセスしやすい位置に計画することが望ましい。 ・物流における2024年問題もあり、周辺の産業・物流施設へのアクセス性は重要である。		
	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・地域集落住民の利便性向上のため、出来る限り集落に近接した位置に計画することが望ましい。		
	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	・地域集落住民の利便性向上のため、出来る限り集落に近接した位置に計画することが望ましい。		
	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・インター位置から観光施設等へのアクセス道路整備への財政支援対策を講じる必要がある。		
	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	・有事の物資輸送や避難道路等として支障をきたさない位置に計画することが望ましい。		
その他のご意見				・大規模災害時の輸送道路の確保を重視するため、現在の緊急輸送道路の代替路線となり得る浸水想定区域を出来るだけ回避した案①での整備が望ましい。 ・ICまでのアクセスは、既存の生活道路の改良で対応すべき。

3-4. 第2回意見聴取の結果＜自治体への意見聴取結果＞

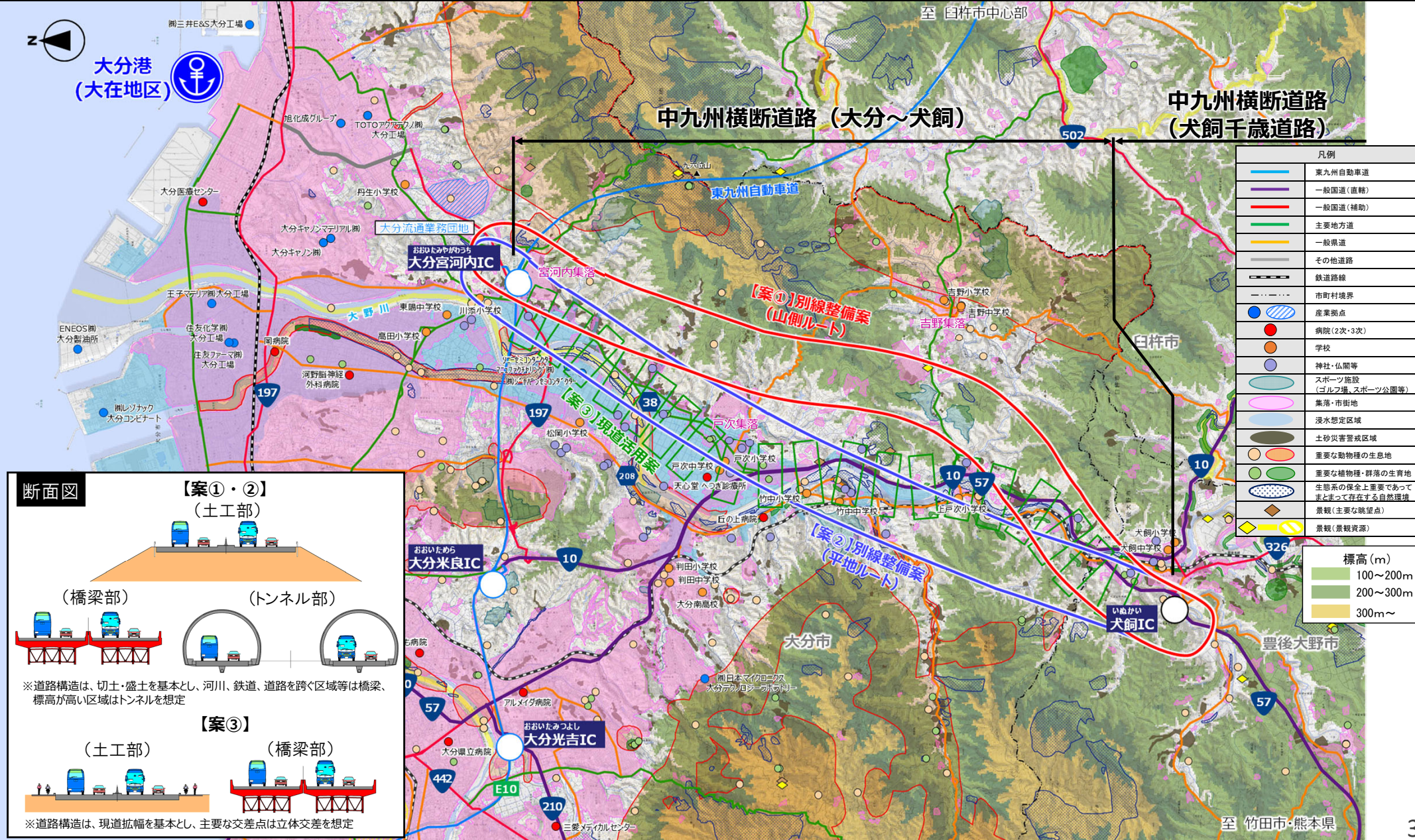
■竹田市

重視すべき事項				意 見
ルート帯について	政策目標	産業	① 大分市臨海部の産業・物流拠点までの移動時間が短く、輸送時間が読めること	・卸売市場が大分市街地にあるため、大分市中心部への移動時間が短縮することが望ましい。
		防災	② 災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること	・熊本地震の際は、国道57号が物流の主要なルートとなっていた。今後の南海トラフ地震発生時等を考えても、沿岸部と熊本方面が高規格道路でつながっていることは重要である。
			③ 洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと	・災害時の応援の際には中九州横断道路が必要となることから、浸水想定区域を回避するルートが望ましい。 ・南海トラフ地震発生時の津波を想定した場合に、浸水想定区域を回避するルートが必要。
		暮らし	④ 物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと	・国道10号から県道38号への狭い道を利用する大型車が多いため、物流交通と生活交通が分離できると良い。
		医療	⑤ 大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと	・救急搬送時にはカーブや路面の凹凸、信号が少ないほうが良い。
			⑥ 大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること	・救急搬送の面においては迂回するルートであると時間的メリットがないので、大分市中心部の病院（アルメイダ病院、大分県立病院、大分三愛メディカルセンター等）まで少しでも時間短縮することを望む。
		観光	⑦ 観光地への移動時間が短く、到着時間が読めること	・周遊ツアー等を組む際に時間が読めることは重要である。 ・高規格道路ルートと現道ルートの選択肢を設けて利用者が使い分けできると良い。
	道路整備による影響	⑧ 生活環境(大気質・騒音など)への影響が小さいこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑨ 自然環境(動物・植物など)への影響が小さいこと	・竹田方面では本線に猪が出没する事例もあり、山を切り崩した場合の動物への影響が懸念される。 ・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑩ 景観(景観資源など)への影響が小さいこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑪ 移転する家屋・施設が少ないこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑫ 沿道からの利用が便利なこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑬ 施工中の周辺交通などへの影響が小さいこと	・道路整備による影響が小さいことも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑭ 段階的に開通でき、早期に整備効果が望めること	・段階的に早期に開通することも重要であるが、産業面などで整備効果が現れることを重要視する。	
		⑮ 整備費用が安いこと	・整備費用よりは効果を重視する。 ・整備費用は重視するが、山側ルートであれば移転等にかかる費用も少なく済むため大きな影響はないと考える。	
インターチェンジの位置等について	⑯ 周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと	・特になし。		
	⑰ 集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること	・買い物に行く際、大分市中心部へのアクセスを考えると、中間ICは戸次周辺に設置し、本線から現道の国道10号や国道57号へアクセスしやすいことが望ましい。		
	⑱ 集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること	・竹田市内には産婦人科がないため、そういった専門の医療機関へのアクセスが良くなることが重要と考える。		
	⑲ 観光資源・観光施設に近接して早く行けること	・特になし。		
	⑳ 災害時に安全かつ円滑にアクセスできること	・災害支援について、山側の市町村と海側の市町村で連携しており、竹田方面から臼杵・佐伯・津久見方面への支援の際には安全かつ円滑にアクセスできることが望ましい。		
その他のご意見				・大学や高校などが立地するエリアでもあるため、通学を考慮した視点も追加してはどうか。 ・大分市中心部までのアクセスを考えると、宮河内IC～米良IC間が有料となるため利用促進が図れないと考える。宮河内IC～米良IC間を無料にしてほしい。

4. 対応方針(案)の検討

4-1. 対応方針(案)の検討<複数案の比較>

- 【案①】別線整備案(山側ルート): 山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案
- 【案②】別線整備案(平地ルート): 平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点間を最短で結ぶ別線整備案
- 【案③】現道(国道10号・57号・県道38号)活用案: 国道10号・57号・県道38号の現道拡幅や交差点立体化等を行う案



4-1. 対応方針(案)の検討＜複数案の比較＞

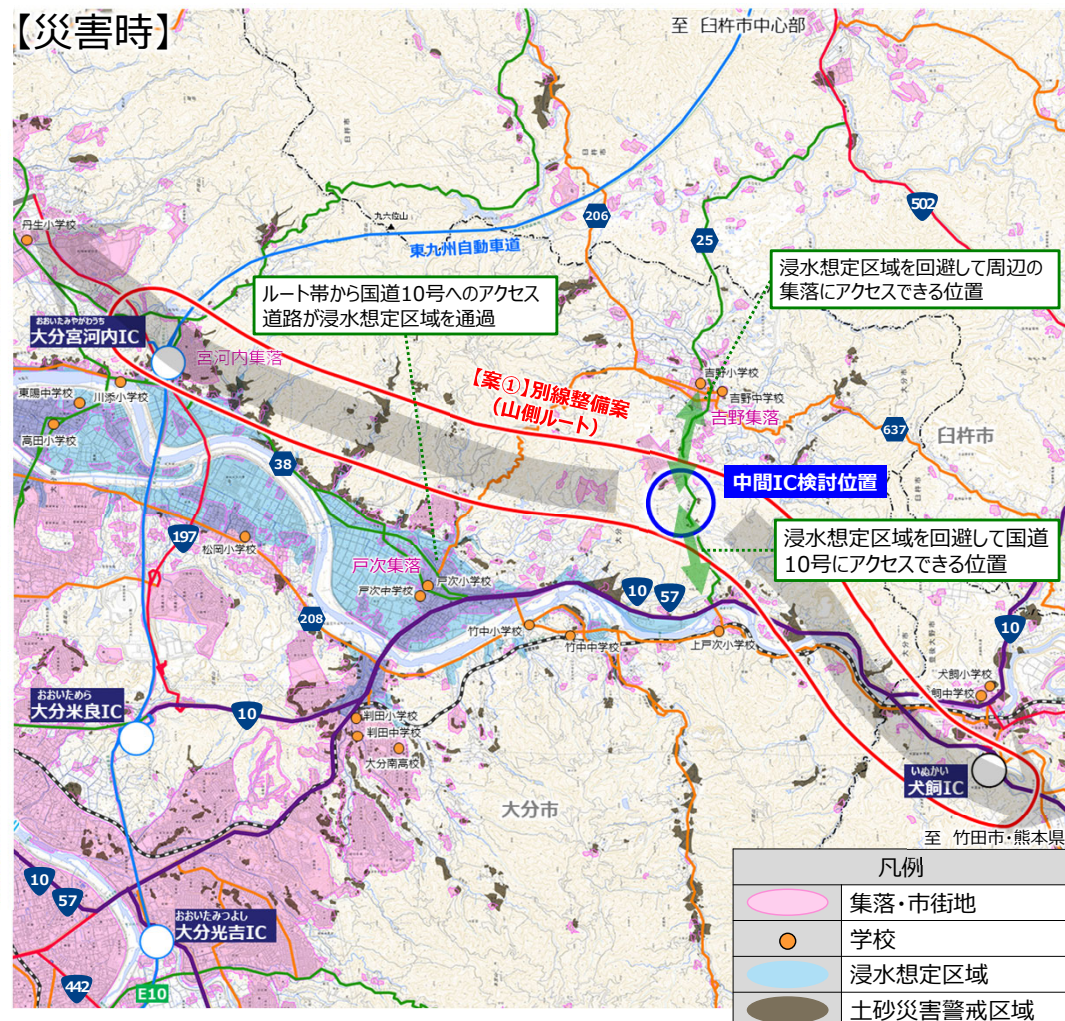
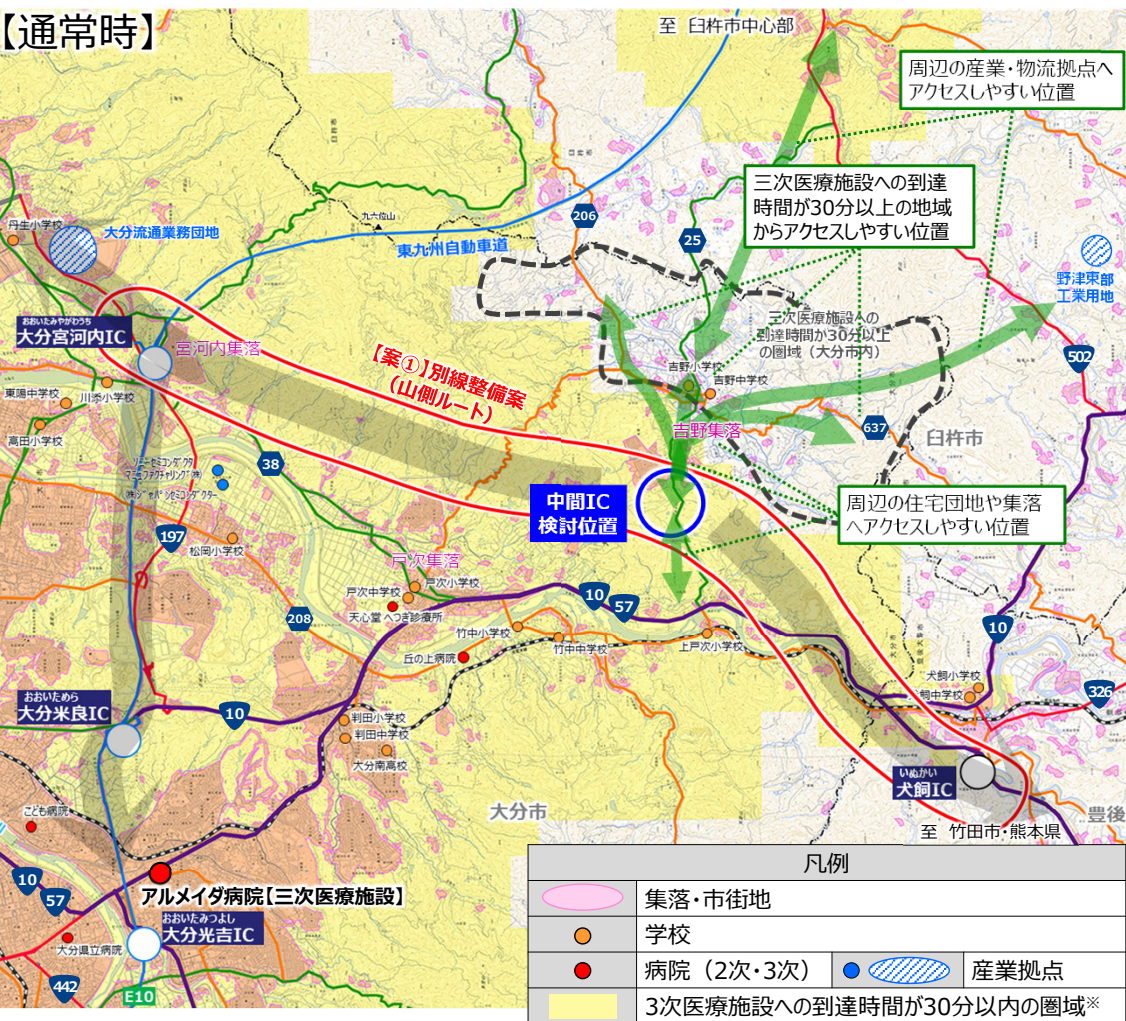
○比較評価の結果、意見聴取にて重要視されている全ての政策目標の達成が見込めるほか、道路整備による影響についても、他案より総合的に優れていることから、ルート帯案については【案①】別線整備案(山側ルート)を対応方針(案)とする。

意見聴取で重視すべきとされている上位の項目			【案①】別線整備案（山側ルート）		【案②】別線整備案（平地ルート）		【案③】現道(国道10号・57号・県道38号)活用案			
他の案に比較して優位			山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案		平地部の集落・市街地・浸水想定区域を通過するが、起終点間を最短で結ぶ別線整備案		国道10号・57号・県道38号の現道拡幅や交差点立体化等を行う案			
表内には現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載 (○：改善・満足する △：一部改善・満足する ×：他案に比べて劣る)										
評価項目			延長 約18km 自動車専用道路タイプ（設計速度:80km/h）		延長 約17km 自動車専用道路タイプ（設計速度:80km/h）		延長 約18km 一般道路タイプ（設計速度:60km/h）			
項目			評価指標							
政策目標	産業	速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援	①	大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られる	○	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られる	○	・大分市内の産業・物流拠点※1から熊本市までの移動時間の短縮が図られるが、案①、案②より劣る	△
		防災	②	災害時に機能する代替路の確保	・別線整備により代替路が確保される	○	・別線整備により代替路が確保される	○	・現道利用のため代替路が確保されない	×
	③		浸水に関する被災リスク	・浸水想定区域をほぼ回避するルートであるため、道路損傷による通行規制が発生する可能性が最も低い	○	・浸水想定区域を通過する区間が案①より長い、道路損傷による通行規制が発生する可能性が案①より高い	△	・現道利用のため道路自体が浸水する恐れがあり、通行規制が発生する可能性が最も高い	×	
	④		現道の安全性・走行性（生活交通・物流交通の分散）	・別線整備により生活交通と物流交通が分散し、交通混雑の緩和が図られるため、走行性・安全性向上が見込まれる	○	・別線整備により生活交通と物流交通が分散し、交通混雑の緩和が図られるため、走行性・安全性向上が見込まれる	○	・主要交差点の立体化等により混雑緩和が図られるが、現道の生活交通と物流交通の混在は残る	△	
	医療	速達性・走行性の向上による医療活動の支援	⑤	三次医療施設※2への走行性	・別線整備により現道の信号交差点等を回避できるため、搬送時の加減速の頻度が減少し、走行性向上が見込まれる	○	・別線整備により現道の信号交差点等を回避できるため、搬送時の加減速の頻度が減少し、走行性向上が見込まれる	○	・搬送時に信号交差点等において加減速が発生するため、走行性の面で案①、案②より劣る	△
		⑥	救急搬送時（三次医療施設※2）の速達性の向上（30分圏域人口の拡大）	・大分市内において30分以内で三次医療施設※2に到着できない地域の近傍を通過するルートであるため、30分圏域人口の拡大が最も見込まれる	○	・大分市内において30分以内で三次医療施設※2に到着できない地域の近傍を通過しないルートであるため、30分圏域人口の拡大は案①より劣る	△	・大分市内において30分以内で三次医療施設※2に到着できない地域の近傍を通過しないルートであるため、30分圏域人口の拡大は案①より劣る	△	
	観光	広域周遊道路ネットワークの確保による観光振興の支援	⑦	観光地※3への移動時間	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られる	○	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られる	○	・別府・佐賀関方面から豊後大野市・竹田市の観光施設までの移動時間の短縮が図られるが、案①、案②より効果は小さい	△
	道路整備による影響	生活環境※4	⑧	大気質、騒音への影響	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があるが、影響の程度は最も小さいと考えられる	○	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があり、影響の程度は案①より大きいと考えられる	△	・集落・市街地等を通過するため、生活環境に影響を与える可能性があり、影響の程度は案①より大きいと考えられる	△
		自然環境※4	⑨	動植物の生息・生育地、生態系等への影響	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	△	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	△	・自然環境を考慮すべき箇所を通過するため、自然環境に影響を与える可能性がある	△
		景観※4	⑩	景観資源・主要な眺望点への影響	・景観資源を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	△	・景観資源・主要な眺望点を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	△	・景観資源・主要な眺望点を一部通過するため、景観に影響を与える可能性がある	△
集落等への影響		⑪	移転が必要となる家屋・施設等の数	・山間部を主に通過するため、移転等は少ない	○	・集落・市街地を通過するため、学校、家屋、商業施設、神社・仏閣などが多く存在し、移転等が多い	×	・集落・市街地を通過するため、学校、家屋、商業施設、神社・仏閣などが多く存在し、移転等が多い	×	
沿道利用		⑫	周辺からのアクセス利用	・沿道の集落・施設からの利用はインターチェンジに限定される	△	・沿道の集落・施設からの利用はインターチェンジに限定される	△	・沿道の集落・施設からのアクセス性は高い	○	
施工中の影響		⑬	現道交通や生活道路等への影響	・別線整備のため、現道交通への影響は小さい ・山間部を主に通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性は案②、案③より低い	○	・別線整備のため、現道交通への影響は小さい ・集落・市街地を通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性が高い	△	・現道の切り直し等により現道交通への影響が大きい ・集落・市街地を通過するため、生活道路内の交通に対して影響を与える可能性が高い	×	
段階的な効果の発現		⑭	発現の時期	・部分的な開通が可能なため、段階的に効果発現が見込まれる	△	・部分的な開通が可能なため、段階的に効果発現が見込まれる	△	・現道を改良するため、開通したところから効果発現が見込まれる	○	
コスト		⑮	整備に要する費用	約2,200～2,400億円	△	約2,200～2,400億円	△	約1,200～1,400億円	○	

※1…産業・物流拠点:大分港(大分地区) ※2…三次医療施設:アルメイダ病院 ※3…観光地:岡城址(竹田市) ※4…自動車の走行や道路の存在に伴い影響を及ぼす可能性のある事項を整理

4-2. 対応方針(案)の検討＜中間ICの必要性＞

- 【案①】別線整備案(山側ルート)では、周辺地域へのアクセスがICに限定されることから、地域の意見等を踏まえて、市街地・集落、産業・物流拠点、救急医療施設等への連絡性、災害時のアクセス性等を考慮し、主要な幹線道路とのアクセスがしやすい位置に中間ICの設置を検討。
- 通常時:周辺の市街地・集落、産業・物流拠点に近接し、大分中心部や熊本方面へのアクセス性向上が図られる位置。
また、現況で三次医療施設への到達時間が30分以上の地域に近接し、救急医療活動の支援が期待される位置。
- 災害時:周辺の市街地・集落や、国道10号へのアクセスの際に、浸水に関する被災リスクを回避できる位置。



※R3全国道路・街路交通情勢調査(混雑時旅行速度)を使用して算出

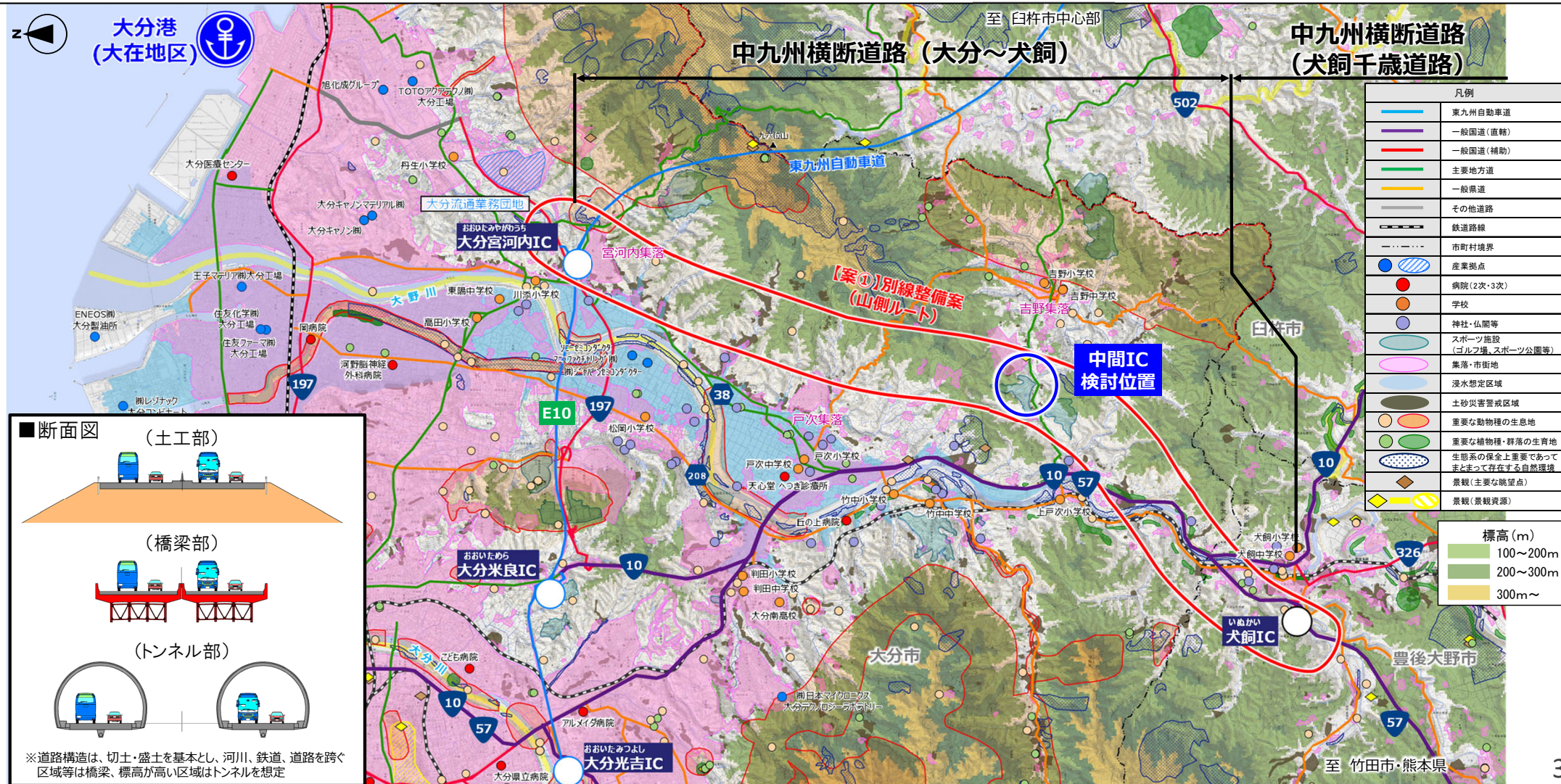
4-3. 対応方針(案)の検討<ルート帯案・インターチェンジの位置>

【ルート帯案の考え方】

○速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援、災害時に機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築するとともに、生活交通と物流交通の分散による安全性・走行性の確保や救急搬送時の走行性・速達性の向上を図り、集落・市街地や現道交通および生活道路への影響が最小限となる全線別線ルート

【インターチェンジの位置の考え方】

○地域の意見を踏まえて、集落に近接し、大分中心部や熊本方面へのアクセス性が向上するとともに、三次医療施設への速達性や災害時の安全かつ円滑なアクセス性を確保



5. 自治体への意見照会

5. 自治体への意見照会

○意見照会の回答(大分県知事)

意見
1. 中九州横断道路(大分～犬飼)における九州地方整備局としての対応方針(素案)に同意します。 2. 当該道路は、九州の東西を連結し、熊本・大分のみならず、九州全体の一体的な発展を図るために必要不可欠な路線です。沿線には九州を代表する企業集積地や観光地が存在し、九州全体の産業や地域の活性化、観光振興に資する、「物流の道」「観光の道」としての役割を担っており、全線が繋がれば九州の東の玄関口としての本県のポテンシャルが最大限に発揮されます。また両県の広域防災拠点を結び、相互に支援・受援が可能となる災害に強い「命の道」としても必要不可欠な道路です。さらに、国家プロジェクトである世界的半導体企業TSMCの進出を契機に、半導体関連企業による設備投資等が活性化しており、「新生シリコンアイランド九州の実現」を目指し取り組む中、早期の全線開通が望まれています。 3. 本区間の早期整備により、供用・事業中区間と一体となり更なるストック効果が発現されるよう、臼杵港や野津東部工業用地へのアクセス性等を考慮した中間ICを設置して頂きますとともに、早期事業化に向け、手続きをより一層加速していただきますようお願いします。 4. 事業の実施に向けては、本区間沿線の豊かな自然環境及び地域の生活環境への影響をできる限り回避・低減していただきますようお願いします。

道 建 第 7 6 8 号
令和 5 年 1 2 月 1 日

国土交通省
九州地方整備局長 森戸 義貴 殿

大分県知事 佐藤 樹一郎
(公印省略)

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答)

令和 5 年 1 1 月 3 0 日付け国九整道一計第 3 0 号にて照会のありました標記のことについて、下記のとおり回答します。

記

- 1 中九州横断道路 (大分～犬飼) における九州地方整備局としての対応方針 (素案) に同意します。
- 2 当該道路は、九州の東西を連結し、熊本・大分のみならず、九州全体の一体的な発展を図るために必要不可欠な路線です。沿線には九州を代表する企業集積地や観光地が存在し、九州全体の産業や地域の活性化、観光振興に資する、「物流の道」「観光の道」としての役割を担っており、全線が繋がれば九州の東の玄関口としての本県のポテンシャルが最大限に発揮されます。また両県の広域防災拠点を結び、相互に支援・受援が可能となる災害に強い「命の道」としても必要不可欠な道路です。さらに、国家プロジェクトである世界的半導体企業 TSMC の進出を契機に、半導体関連企業による設備投資等が活性化しており、「新生シリコンアイランド九州の実現」を目指し取り組む中、早期の全線開通が望まれています。
- 3 本区間の早期整備により、供用・事業中区間と一体となり更なるストック効果が発現されるよう、臼杵港や野津東部工業用地へのアクセス性等を考慮した中間 IC を設置して頂きますとともに、早期事業化に向け、手続きをより一層加速していただきますようお願いします。
- 4 事業の実施に向けては、本区間沿線の豊かな自然環境及び地域の生活環境への影響をできる限り回避・低減していただきますようお願いします。

6. 対応方針(案)まとめ

6. 対応方針(案)まとめ

1. 道路整備の必要性

【理由】
政策目標を実現できる道路整備を検討

- 【政策目標】
- ◇速達性・定時性・アクセス性の向上による産業活動の支援
 - ◇災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの構築
 - ◇速達性・定時性・安全性・走行性の確保による生活利便性の向上
 - ◇速達性・走行性の向上による医療活動の支援
 - ◇広域周遊道路ネットワークの確保による観光振興の支援

- 対象地域の国道10号・57号は、洪水浸水想定区域に位置し路面冠水等による通行止めが発生している。また、利用時の速達性・定時性・走行性・安全性が低く、産業活動や医療活動、観光振興、地域住民の生活に支障を及ぼしている状況にある。
- 住民アンケートや団体・企業アンケートにおいても、上記の内容に関する課題意識と課題解決を求める意見が多く、災害時に機能する信頼性の高いネットワークの構築と、速達性・定時性・安全性・走行性の向上を図り、地域の発展を支援する道路が望まれている。

2. 対応方針(案)

(1)ルート案について

『【案①】別線整備案(山側ルート)』を対応方針(案)とする。

- 【理由】
- 政策目標に関して、『【案①】別線整備案(山側ルート)』は『【案②】別線整備案(平地ルート)』及び『【案③】現道活用案』と比べて、最も政策目標の達成が見込まれる。
 - さらに、地域の意見聴取において重視すべきとの回答がいずれの項目についても6割以上であり、重視すべきとの回答が特に多かった「②災害時に国道10号・57号の代替路として利用できること」「③洪水浸水想定区域を回避し、通行規制が発生する可能性が低いこと」「④物流交通と生活交通の分離が図られ、走りやすく事故の危険性が少ないこと」「⑤大分市内の三次医療施設への救急搬送時に患者への負担が少ないこと」「⑥大分市内の三次医療施設へ早く搬送できること」の項目について、【案①】は他案より優れており、地域のニーズに最も応えられている。
 - 道路整備による影響に関して、地域の意見聴取では「⑩景観への影響が小さいこと」を除く全項目で、重視すべきとの意見が6割以上であり、【案①】は相対的に他案より優れており、地域のニーズに応えられている。
 - 自治体からも政策目標の達成が見込まれ、他案に比べて道路整備による影響も小さい【案①】を望む意見も挙げられている。
 - 比較評価の結果、【案①】は地域等からの意見聴取結果にて重要視されている政策目標の達成が見込まれるほか、道路整備による影響についても他案より総合的に優れている。

(2)インターチェンジについて

○市街地や第三次医療施設へのアクセス性、災害時の安全かつ円滑なアクセスに考慮し、集落に近接する位置へ配置する。

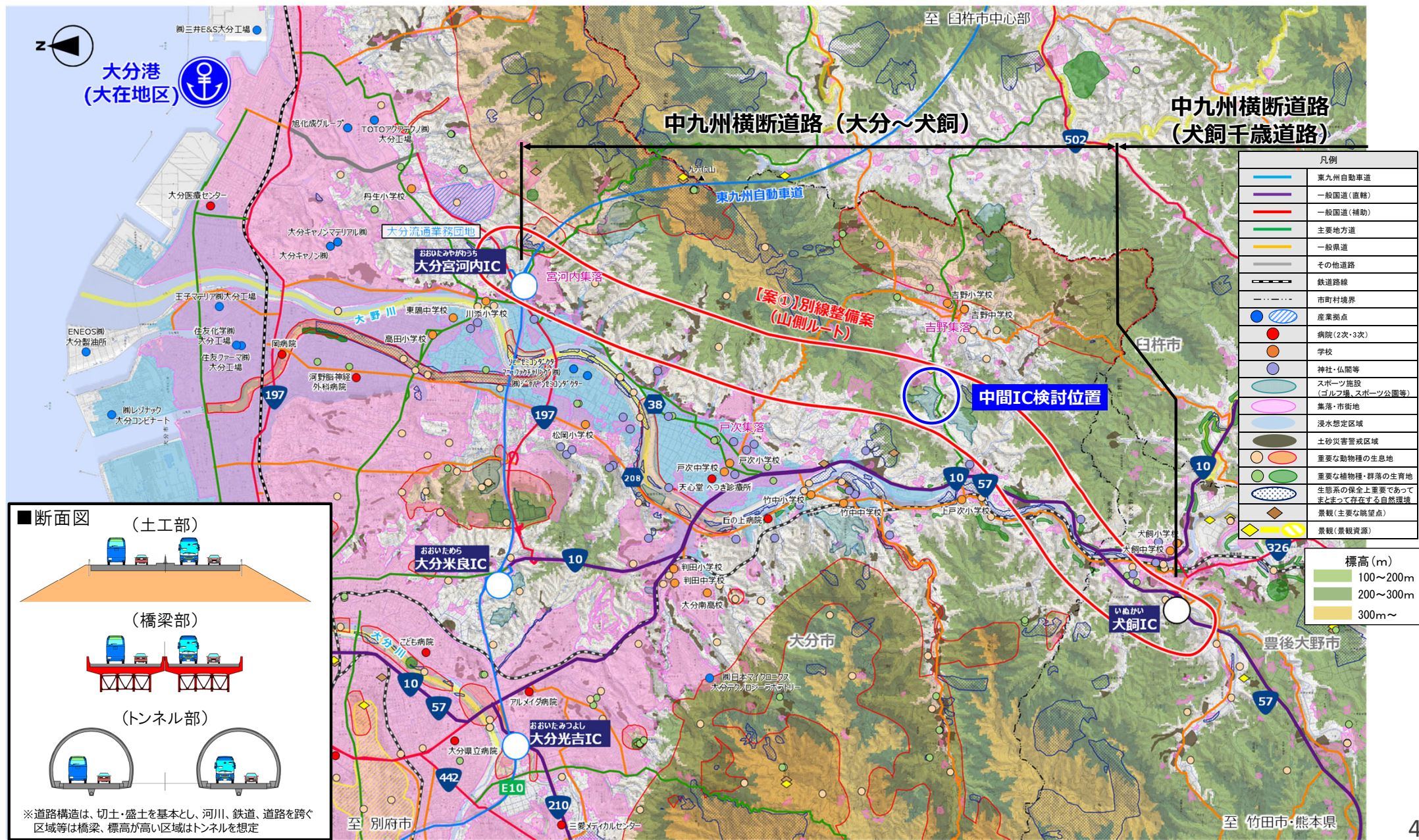
- 【理由】
- 地域の意見聴取において、「⑯周辺の産業・物流施設にアクセスしやすいこと」「⑰集落に近接し、大分中心部や熊本方面へ早くかつ安全に移動できること」「⑱集落に近接し、大分市内の医療施設への移動時間が短縮すること」「⑳災害時に安全かつ円滑にアクセスできること」の項目で重視すべきとの意見が8割以上と多かった。

3. その他(配慮すべき事項等)

- 詳細なルート・構造の検討にあたっては、生活・自然環境や家屋への影響をできる限り少なくし、既存道路状況や沿道利用状況を踏まえながら、段階的な整備効果の発現やコスト縮減に留意した検討を行うとともに、新たに整備される道路と既存の道路の接続方法について、各関係自治体と調整を行う。

6. 対応方針(案)まとめ

○集落や医療施設等へのアクセス性を重視し、全線別線整備により走行性・速達性の向上及び代替路確保を図る案とする



END